

## 第 2 章

# 山形大学教官研修会 「第 3 回 教養教育 FD 合宿セミナー」

平成15年度教養教育改善充実特別事業  
第 3 回山形大学教養教育FD合宿セミナー  
「相互研鑽による教養教育の飛躍をめざして」



日 時： 平成15年8月4日(月)～9日(土)  
場 所： 山形大学蔵王山寮(電話023-694-9669)  
主 催： 山形大学教育方法等改善委員会

### 第3回 教養教育FD合宿セミナーパンフレットの抜粋

#### F D合宿セミナーに当たって

山形大学は6学部を擁する総合大学です。教養教育は、総合大学の特性を有効に活用するために全学出動体制を採っており、それは山形大学の大きな個性にもなっています。学部の垣根を越え、山形大学全体の教育を考える上で、教養教育は全ての教官の共通基盤となるものです。また、生き残りをかけた大学改革に際し、授業の充実是最も重要な課題の一つでしょう。

今回のセミナーの第一の目的は、「個々の教員が、山形大学を支えることの意義と位置付け、教育の基本的構成要素、各授業科目の存在意義、授業設計、成績評価法などについて、あたらめて主体的に検討し、再構築していただくこと」です。この目的を達成するために、まず、参加者の皆様に御担当いただく新しい授業科目について考えていただきます。そして、そのシラバスをグループで協力して作成していただきます。こうした一連の作業が有効な方法であることは、既に広く知られています。

セミナーは、本学への参画意識を高めるための2つのプログラムと、シラバスを作成するための3つのプログラムから構成されています。各プログラムは、グループ作業を中心に組まれており、参加者は学生が運営する学生主体型授業を体験することになります。

また、「教養教育を素材として、学部間の人的交流の拡大・充実を図ること」が第二の目的です。他部局の参加者と活発な議論を交わしながらプログラムを遂行し、セミナーが終了した後は、参加者が山形大学の教養教育を始めとした教育全般の発展に、より一層積極的に貢献されることを期待しています。

このセミナーは、「山形大学の構成員こそが山形大学の財産」という精神でのぞんでいます。



【第1チーム】



【第2チーム】



【第3チーム】

### 第3回 山形大学教養教育FD合宿セミナー日程表（各日程共通）

第1チーム 8月4日（月）～5日（火）

第2チーム 8月5日（火）～6日（水）

第3チーム 8月8日（金）～9日（土）

#### 第1日目

時刻	項目	担当
12:50	山形大学集合・受付（正門付近）	事務
13:00	送迎バス 大学出発（バス内で自己紹介）	
14:00	会場到着 セミナー開会 学長・副学長あいさつ	司会：小田
14:30	アイスプレ・キング	LA1
14:40	オリエンテーション	小田
15:00～16:30	プログラム 「山形大学のニーズと課題」	小田
16:30～16:40	休憩（10分間）	
16:40～18:10	プログラム 「山形大学をどのような大学にするか」	小田
18:10	休憩・夕食など	
19:30～21:00	プログラム 「科目設計1：授業名と目標の設定」	LA1
21:00～21:10	休憩（10分間）	
21:10～22:30	懇親会	LA2
22:30	中締め	
23:00	就寝	

#### 第2日目

時刻	項目	担当
7:30～	朝食・部屋退出	
8:30～10:00	プログラム 「科目設計2：授業内容の作成」	LA2
10:00～10:10	休憩（10分間）	
10:10～11:40	プログラム 「科目設計3：シラバスの完成」	LA2
11:40～	修了式	小田
12:20～	昼食	
13:30	送迎バス 蔵王山寮出発	
15:00頃	大学到着 解散	

#### 【留意事項】

セミナー期間中の途中からの参加及び離脱は禁止とします。

セミナー期間中の個人の呼称は、「さん」とします。

食事はセルフサービスとなります。食事時間になりましたら、共同で配膳作業等を行ってください。

1日目の入浴時間は設けておりませんので、18:10～19:30の時間帯で御利用ください。

起床と同時に、寝具を使用前と同様に整理・整頓し、使用した宿泊室・廊下等を清掃してください。

退出の際は、使用したシーツ・枕カバーをたたんで、指定する場所に返却してください。

# オリエンテーション

(担当：小田)

## 1 FDの必要性

大学の社会的教育責務の明確化

大学教育を教員中心から学生中心へ移行することの教員の意識改革

大学生の質の変化への対応

## 2 合宿セミナーの目的

教官個人が大学を支えること的位置付け

教育の基本的構成要素，大学における各科目の存在意義，授業設計，成績評価法などをあらためて整理する。

教員相互の交流

## 3 セミナー形態

体験型のセミナーで，セミナー自体がグループ学習形式であり，参加者は，学生が運営する学生主体型授業を体験することになる。

参加者によるセミナー全体の運営

セミナーのグループ構成：5班

班の構成員の年齢は幅広くする。「プログラム・ 」と「プログラム・ 」で，班構成を替える。

各プログラムに，毎回，総合司会者と記録係を置く。(各班の持ち回り)

各班に，毎回，司会者と記録係，発表者を置く。(持ち回り)

全体と各班の記録係は，各プログラム終了後に記録を提出(この記録は，コピーした後，速やかに全班に配布)

参加者による相互評価：各回のプログラムが終了した時点で，各参加者が各班の発表と質疑応答に対し，5段階で評価を与える。(この評価は，毎回回収し，整理した後，速やかに掲示する。)

合宿セミナーに関するポストアンケートを実施

## 4 各プログラムの基本的形態

各プログラムの講師による作業内容の説明 10分

グループ作業 40分

発表 各グループ 20分

(各グループの発表時間 4分 × 5班)

全体討論 20分

全体で 90分



平成15年度 第3回山形大学教養教育FD合宿セミナー  
「相互研鑽による教養教育の飛躍をめざして」

セミナーの形態

体験型のセミナーで、セミナー自体がグループ学習形式であり、参加者は、学生が運営する学生主体型授業を体験することになる。

参加者によるセミナー全体の運営

班構成：5班 班の構成員の年齢は幅広くする。班は、参加者を見て、当日までに委員会で決定しておく。

「プログラム・ 」と「プログラム・ 」で、班構成を入れ替える。

各セミナーに、毎回、司会者と記録係を置く。(各班の持ち回り)

各班に、毎回、司会者、記録係及び発表者を置く。(持ち回り)

各プログラムの基本的構成

各プログラムを担当する講師による作業内容の説明	10分
班ごとの作業	40分
発表 各班の発表時間4分×5班	20分
全体討論	20分

全体と各班の記録係は、A4版1枚程度に記録をまとめ、各プログラム終了後に提出する。(この記録は、コピーした後、速やかに参加者全員に配布)

参加者による相互評価：各回のプログラムが終了した時点で、各参加者が各班の発表(各4分で計20分)と質疑応答に対して評価する。5段階評価とし個人は15点の持ち点を有する。(この評価は、毎回回収し、整理した後、速やかに全班に配布)

プログラム 「山形大学のニーズと課題」

各班同じテーマ 次のプログラムも念頭に置く。

山形大学の分析

- ・山形大学の置かれている状況分析
- ・社会的ニーズ
- ・長所
- ・短所
- ・現実的な制約・問題点、改革の必要性など

プログラム 「山形大学をどのような大学にするか」

プログラム の問題点等を踏まえた上で、山形大学の教育機能を十分に発揮するためには、これからどのようなことを考え、実行していかなければならないか、具体的に提案する。

山形大学の理念・目標を実現するための具体的行動目標、山形大学の「個性」と「売り」をどうするか。すべての班が同じテーマであるが、個性あふれる現実的企画を期待する。

山形大学の「売り」を作る企画が求められる。

理念・目標

- ・自覚的に個性的な校風を作り出していく
- ・個性的な山形大学像(理念・目標, キャッチフレーズ)

方略(考えられるいくつかの方法, 実現の可能性)

実行計画(主な活動, 資源, 時期, 担当, 責任, 具体的企画書等)

- ・その宣伝・普及の方法(3年計画案)

評価(測定方法, 学生, 教員)

- ・目標が達成できたかどうかを検証する。

## プログラム 「科目設計 1 : 授業名と目標の設定」

各授業に分かれ、以下の指定された授業において適当な科目を作り、その科目名（名は体を表す科目名）とその学習目標を明らかにする。履修の時期も明確にする。

- A 班：山形大学の個性を発揮する授業
- B 班：地域性と関連する授業：大学と地域の連携
- C 班：21世紀の諸課題に対応する授業
- D 班：倫理性・公共性を培う授業
- E 班：職業意識と労働意欲を培う授業

## プログラム 「科目設計 2 : 授業内容の作成」

学習方略

授業内容（順次性を踏まえて設計）

授業の方法（講義，ビデオ，見学，調査，討論，担当教員等）

ここでは、「科目設計 1」で作った科目の授業内容を設計する。原則として、週に 1 回 90 分授業を 15 回実施するとして、15 回分の授業内容（方略）を設計する。授業の順序と各回の内容，授業法，媒体，資源などを現実的に示す。方略を設計するに当たり、目標の修正が必要になるかもしれない。この場合は、目標を手直しする。

## プログラム 「科目設計 3 : シラバスの完成」

「科目設計 2」で設計した授業内容を手直しし、「評価」の項を加え、シラバスを完成させる。

成績評価

評価項目

評価方法

評価比重（%）

### 各チームごとの担当 LA

第 1 チーム担当	第 2 チーム担当	第 3 チーム担当
LA 1 須賀 一好	LA 1 江間 史明	LA 1 丹野 憲昭
LA 2 中村 三春	LA 2 元木 幸一	LA 2 丸山 俊明



## プログラム 「山形大学のニーズと課題」

(担当：小田)

各班同じテーマ プログラム も念頭に置く。  
現実的，具体的に解析する。

- 1 山形大学には何が求められているか？
  - ・社会は山形大学に何を求めているか？
  - ・学生のニーズ
- 2 山形大学の置かれている状況分析
  - ・そこには，どのような課題（問題）があるか？
  - ・長所
  - ・短所
  - ・その生じさせている理由・原因は何か？
- 3 現実的な制約・問題点，改革の必要性など

## プログラム 「山形大学をどのような大学にするか」

(担当：小田)

プログラム の問題点などを踏まえた上で，山形大学の教育機能を十分に発揮するには，これからどのようなことを考え，実行していかなければならないか，具体的に提案する。山形大学の理念・目標を実現するための具体的な行動目標，山形大学の「個性」と「売り」をどのようにするか。すべての班が同じテーマであるが，個性あふれる現実的企画を期待する。  
山形大学の「売り」を作る企画が求められている。

- 1 山形大学の理念・目標
  - ・自覚的に個性的な校風を作り出していく
  - ・個性的な山形大学像（理念・目標，キャッチフレーズ）
- 2 方略（考えられるいくつかの方法，実現の可能性）
- 3 実行計画（主な活動，資源，時期，担当，責任，具体的企画書など）
  - ・その宣伝・普及の方法（3年計画案）
  - ・組織論（学部，学生の入口と出口（入試制度と就職），学長と副学長制，委員会など）
- 4 評価（測定方法，学生，教員）
  - ・目標が達成できたかどうかを検証する

# プログラム 「科目設計 1：授業名と目標の設定」

(担当：L A 1)

## ここでの課題

シラバス作成作業の第1段階として、各グループごとの課題に対応した授業名と学習目標の設定を行う。

プログラム ~ の各グループの課題

- A班：山形大学の個性を発揮する授業
- B班：地域性と関連する授業：大学と地域の連携
- C班：21世紀の諸課題に対応する授業
- D班：倫理性・公共性を培う授業
- E班：職業意識と労働意欲を培う授業

**作業1** 授業名の決定： (仮称) 内容確定後、最後に決定？

## 作業2 学習目標の設定

1 踏まえておくべきことから：

- (1) 教員中心ではなく、学生による学習を中心に考える(教員の果たすべき役割の再検討)
- (2) 山形大学に対する社会的ニーズ
- (3) 山形大学の全体的な教育目標

註：(1)について

大学の役割

講義の提供

学生から独立

学力差を明確にする

成功へ向けて

伝授する資源の重視

資源の量と質の重視

入学生の質の重視

カリキュラムの発展と拡大

大学の質・内容の質

使命

知識の提供・伝授

コース・プログラムの提供

教育の質の改善

多様な学生への対応

教育

教員中心・知識伝授

教育の質

指導者としての教員

個人的・受動的学習

学習方法と教育方法のデザイナー

教員と学生を一つのチームと考える

すべての学生の能力と才能を引き出す

学習と学生の成功の産物を重視

産物の量と質を重視

卒業生の質を重視

学習技法の発展と拡大

学生の学習の質

学習を生み出し、知識の発見と形成へ

強力な学習環境の提供

学習の質の改善

多様な学生を卒業させる

学生中心・知識発見

学習の質、学習効果・効率

学生の才能・能力を引き出す助言者

共同的・行動的・能動的学習

2 学習目標の記述

各科目の学習目標を表現することの必要性とその表現方法を学ぶ。学習の効果は、教育の受け手(学習の主体)である学生の変容で評価されるべきである。そのために、授業の目標と到達目標を定める。

註：授業の目標を作成する際の注意点

原則

- (1) 学習者を主語として書く
- (2) 学習の結果、いかなることができるようになるかを明示する

記述内容

- (1) 知識・技能の学習がなぜ重要か。それによって学生の要求がどのように満たされるかを明示する。
- (2) 複雑・総括的な概念を持つ動詞を用いる。  
知る，認識する，理解する，感ずる，判断する，評価する，考察する，位置付ける，実施する，適用する，示す，創造する，身に付ける，等々  
単純な行動を示す動詞は用いない(述べる，列挙する，選ぶ，記載する等々)
- (3) 必要な目標分類(認知・態度・技能)を総括的に含める。

註：到達目標を作成する際の注意点

授業の目標を達成するためにどのようなことができるとよいか，具体的に明示する。

- (1) 学習者を主語として書く
- (2) 動詞を含むこと
- (3) 「理解する」のような概念的言葉ではなく，観察可能な行動を具体的に表す
- (4) 授業の目標と関連していること
- (5) 到達レベルを書く
- (6) 認知，態度，技能を分けて書く

知識(認知領域): 知識を得て理解し，一定の能力を獲得する

述べる，説明する，分類する，比較する，解釈する，推論する，一般化する，適用する，結論する，批判する，評価する，等々の動詞

技能(精神運動領域): 知識・能力を活かして意識的・具体的に行動する

感ずる，始める，模倣する，工夫する，行う，創造する，触れる，調べる，準備する，測定する，等々の動詞

態度・習慣(情意領域): 獲得した知識・能力を，情報として相互に提供・交換し合う

行う，コミュニケーションする，協調する，示す，表現する，系統立てる，参加する，応える，等々の動詞

## プログラム 「科目設計2：授業内容の作成」

(担当：LA2)

### ここでの課題

プログラム「科目設計1」で作成した授業について，学習方法と道筋(戦略，学習方略)を明示する。具体的には，学習者が到達目標に達するために必要な学習方法の種類と順序を示す。

### 作業

原則として，週に1回90分の授業を15回実施するものとして，授業の内容を考えてみる。その際，授業の順序と各回の内容，学習法，利用する媒体，資源などについて明示する。内容によっては，授業の目標，到達目標，さらには科目名についても変更が必要になるかもしれない。

註：学習方法の種類

- (1) 受動的学習法：講義など
- (2) 能動的学習法：グループ討議(演習，セミナー，ディベートなど)  
実験・実習  
自習(読書，個人研究，コンピュータ活用学習など)

註：学習のための資源

- (1) 人的な面で：
- (2) 物的な面で： 場所  
媒体（スライド，OHP，標本，VTRなど）
- (3) 予算

## プログラム 「科目設計3：シラバスの完成」

（担当：LA2）

### ここでの課題

プログラム 「科目設計2」で作成した授業について，シラバスを完成する。

### 成績評価

#### その位置付け

- (1) 教育評価は，学生，教員，カリキュラム（目標，学習方法の立案（方略），評価）の三者が対象
- (2) 成績評価は，その中の一つ。

### 留意点

- (1) どの行動領域を評価するか  
知識（認知領域）  
技能（精神運動領域）  
態度・習慣（情意領域）
- (2) いつ評価するか  
学習前（プレテスト）  
学習中（中間テスト）  
学習終了後（ポストテスト）  
フォローアップ・テスト
- (3) 評価の目的  
形成的評価：学生が理解している点，理解が不足している点を発見し，学習法，教授法へのフィードバックが目的。最終評価の参考にしない。  
総合評価：到達目標に対する学生の到達度を計測する。
- (4) いかに評価するか，複数の評価項目のウェイト  
論述試験  
口頭試験  
客観試験  
実地試験  
観察試験  
論文（レポート）

### 評価の持つべき性格

- (1) 妥当性：計測しようと意図する項目を計測できる方法か？
- (2) 信頼性：計測結果の再現性は良いか？
- (3) 客観性：計測者（教員）が替わっても，同じ結果が得られるか？
- (4) 効率性：経済的にも時間的にも実用的か？
- (5) 特異性：なぜ，そういう解答がなされたか分かるか？

# 各プログラムの記録【第1チーム】

## プログラム 「山形大学のニーズと課題」

### グループ作業記録

わかどり班

司会者 伊藤 廣記  
記録者 加藤 良一  
発表者 樋口 喜啓

#### 1 山形大学に何が求められているか?

(社会のニーズ)

地域政策課題の発見と解決  
研究成果の社会への還元  
多様な教育サービスの供給  
優秀な人材の供給

(学生のニーズ)

職業に結びつく実践的教育及び資格取得  
国際色豊かな大学  
活発な課外活動

#### 2 山形大学の置かれている状況分析

総合大学として教員の人的パワーが大きい  
多様な山形の自然環境  
分散型キャンパス

#### 3 現実的な制約・問題点・改革の必要性など

学部間の壁を低く

- ・転学部をしやすいとする
- ・教育研究連携領域を拡大する
- ・他専攻履修をしやすいとする

山形の歴史・文化を授業に取り入れる

各キャンパス間の情報網を整備する

海外の大学との相互交流

- ・教員や学生の交流
- ・取得単位の相互認定

専門職大学院として の資格を出す

地域の人に大学の授業を開放する

## さくらんぼ班

司会者 松崎 学  
記録者 湯浅 哲也  
発表者 渡邊 明彦

### 1 山形大学に何が求められているか?

大学での研究に対して一般人は興味を持っている  
地域の拠点 (ex. 教育学部)  
交換留学  
社会に出て実践的に働ける人材を養成

### 2 課題

自らの価値を認識する, 自己を過小評価しているのでは?

長所 1 東日本有数の総合大学  
2 歴史, 有名な卒業生

短所 1 宣伝が下手

2 立地条件  
3 内向的, 地元志向 (県内)

### 3 改革

他県との交流 (多面的人材を求める)  
意識を高める (歴史的観点から自らを評価する)  
小中学生に対して, 啓蒙的な公開講演が必要  
宣伝を上手に行う (CMや有名人の講演会)



## おいこ班

司会者 神田 良照  
記録者 伊藤 豊  
発表者 山川 光徳

### 1 山形大学に何が求められているか？

- ・ 社会が大学一般に求めているものはあるが、特に「山形大学」に求めるものが本当にあるのか
- ・ 文系・理系に対して、社会の求めるものが違う。
- ・ 産業界が大学に求めるもの これを即「社会的ニーズ」ととらえるべきか？
- ・ 地域にとって、「敷居が高い」という声がある。
- ・ 学生は教員に対して、「面倒見の良さ」を求める傾向がある。  
これをどう扱うべきか？
- ・ 分散キャンパスは、それぞれの地域ニーズ（主に経済的な）に、それなりに基づいているのでは？ タコ足キャンパスを解消すべきか否か？
- ・ 「学生のニーズ」は、学生に対する（知的）刺激がなければ開拓できない。
- ・ 文系学生のニーズ：文章力と語学力を中心とする基礎力の涵養
- ・ 大学博物館に対する地域教育界のニーズ：「総合学習」に使いたい？
- ・ 「人文学部」とは、具体的に何をするとところか？ 分かりにくい学部名
- ・ 理系学生のニーズ：数学などにおける基礎力の低下  
学部教育の教養教育化 大学院が、以前よりも専門教育の場に特化
- ・ 学部を超えた教育の必要性 学部間横断プロジェクト  
(ジョイント・ディグリーなどはどうか。卒業研究を学部横断的に行う。)
- ・ 教養教育の一部を、必要に応じ、各キャンパスに移していく。

### 2 山形大学の置かれている状況分析

(長所)

- ・ 比較的小規模

(短所)

- ・ 分散キャンパス、教員にとっての交通の不便  
リモート講義では人と人とのふれあいが無い
- ・ 気候
- ・ 「何が求められているか」というテーマが、FDに出てくること自体が問題

### 3 現実的な制約・問題点・改革の必要性など

- ・ キャンパス間の距離
- ・ 気候
- ・ 各地域の経済的ニーズ (ex. 米沢キャンパスの地域経済における役割)



## UFD班

司会者 加々島 慎一  
記録者 富澤 直人  
発表者 河野 芳春

### 1 山形大学に何が求められているか?

- 社会 学生（即戦力（技術・意欲・積極性）  
就職オリエンテーション，技術，資格など  
教員（地域との連携，地域への還元）  
工学部の場合，地元就職する学生は2割程度であり，社会からの期待は卒業生よりも，教員の研究やアイデアの方に向く傾向がある。

### 2 山形大学の置かれている状況分析

（長所）

- ・ 地域への密着，地域との交流 山形のみならず，米沢，鶴岡での活動
- ・ 学生の学部間交流（分散キャンパスのメリット）

（短所）

- ・ 米沢・鶴岡 = 1年次からの専門教育が充実できない（分散キャンパスのデメリット）

### 3 現実的な制約・問題点・改革の必要性など

- ・ 分散キャンパスの交流施設の充実
- ・ 寮の充実（学生が1年間でキャンパスを移動するため）
- ・ 1年次から，米沢，鶴岡へ教員が移動して，教養教育を4年間で実施する。  
（学生の年齢とともに，受けとめ方も異なるだろうから，良い側面があるだろう）

## もうご班

司会者 伊藤 貢士  
記録者 松本 邦彦  
発表者 木村 直子

山形大学に何が求められているか。それにいかに応えるか。  
だれが？ - 山形に限る必要ありや。 ex. 庄内と新潟。日本海沿岸

（現実面は山形）

どんな山形大学？ - タコ足。県内唯一の総合大学（統合は無理との前提）

タコ足を活かす道は？ 各拠点で地域に貢献

何を？

ex. 地震 - 人材と情報  
工学部 - 産学共同，特許

いかに？

- ・ 待っていては無理。敷居が高いのが現状。

学生・受験生にとっては？

- ・ 身近な大学として
- ・ 学部ごとの違い（全国区の工学部，県内の教育学部）

分散型ネットワーク  
として活用  
ex. 米沢「ヤーンズ」

経費の確保



# 全体会記録

総合司会 中野 政身  
記録者 角田 憲一

総合司会：各班の発表のまとめ

共通点 ニーズ：地域への貢献  
状況：分散キャンパス  
方向性：学部横断的教育

意見 このうち分散キャンパスについては、デメリットではなくメリットに結びつけることが重要との意見があった。  
各学部の目標についての、具体的内容について紹介があった。

まとめ 各地区に根ざした大学：地域密着型大学  
タコ足のデメリットをメリットにすることが重要



# プログラム 「山形大学をどのような大学にするか」

## グループ作業記録

わかどり班

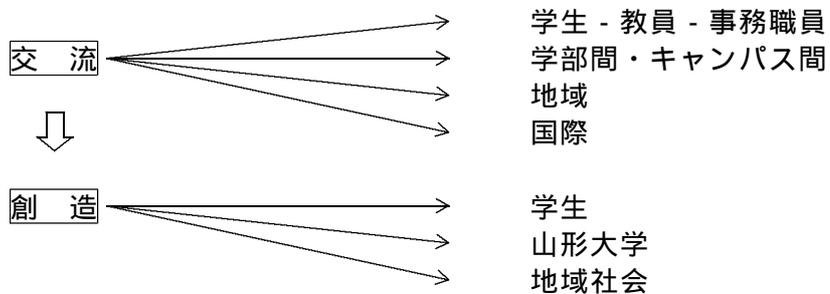
司会者 伊藤 廣記  
記録者 加藤 良一  
発表者 高木 紘一

### 1 理念・目標

多様な価値観の創造  
交流を通じた教育研究のレベルアップ  
(キャッチフレーズ)  
Yamagata Interactive University (YIU)

### 2 方略

### 3 実行計画



### 4 評価

各領域における成果の独創性



## さくらんぼ班

司会者 菊地 仁  
記録者 小野寺準一  
発表者 田北 俊昭

### 1 山形大学の理念・目標

「地域から世界へ，世界から地域へ」

外部から多彩で優秀な人材を定着させ，山形の人材を育てて世界へ

### 2 方略

国内外の大学との単位互換の促進

近隣大学との交流促進（まずは東北6県から）

世界をリードするプロジェクトを

### 3 実行計画

優秀な卒業生，教職員，学生をうまく利用して宣伝活動を活発に行う。

入口にやる気のある学生 出口にもつながる

学部間を効率よくつなぐ就職情報ネットワークを構築

資格取得のための教員の確保を進める

### 4 評価

学生の授業評価

教員の業績評価

特に優れた方には手当を

入試

その他

集中講義，中，高校側へのサービス



# おいこ班

司会者 尾方 隆司  
記録者 小貫 晃義  
発表者 中村 唯史

## 1 キャッチフレーズを考える

地域密着

総合大学の特性を活かす

タコ足大学のデメリットをメリットへ

(経済面を無視してまず考える)

学生も / 教員も各学部へ移動できるように

集中講義形式 / 長期休暇を活用

自由に受講 / 学部横断的

Oct Campus Yamagata を構築

## 2 方略

カリキュラムの見直し

教員の負担, 時間的効率を考える

くさび形カリキュラムの一環として

タコの吸盤のように - 少人数

多様化 メニューを増やして選択肢も増加

公開講座と同じように市民へ

出張(出前)講義形式の充実 他地域(新庄, 酒田)

公民館のような会場も

宿泊施設の充実 - ・セミナーハウスの設置

・学生寮の利用 ・職員宿舎の活用

地域のニーズ = 国際化(例: 酒田のロシア語)

極東への足がかり

## 3 実行計画

各学部の公開講座リサーチ

学生アンケート HP上での調査も

それに基づく実施

セミナーハウス・ゲストハウス(大学宿舎の有効活用, 学生寮に部屋を確保)

組織論

全学レベルへの企画調整が必要

インターネットによる広報 / リサーチ

## 4 評価法

アンケート

受講者数

その他\*\*\*\*\*

学生にプライドを持たせる方策を考える

スポーツなど課外活動を活発化

例えば「鳥人間コンテスト」など全国版のもの

自分の実力を認めていない学生へのアピールが必要

宣伝できるもの 研究

スポーツ

卒業生の活躍

例えば, 新幹線内の電光宣伝に, 学内からの広報を 公開講座の案内も

## UFD班

司会者 富澤 直人  
記録者 新関 久一  
発表者 広瀬 精二

### 1 山形大学の理念・目標

#### オープンユニバーシティ

高校生，社会人にオープンな大学 単位バンク制

- \* 入学定員の確保ができる
- \* 意欲のある学生が入る
- \* 入学前後のミスマッチを防げる
- \* 様々な世代が入ることで，有機的なコミュニケーションが生まれる

### 2 方略

夜間，土，日，休日の活用 Extension  
出張公開講座

### 3 実行計画

広報活動の充実...マスメディアの利用（CATV（山形，米沢）で流す）  
組織：講演会などを企画・サポートする事務サイドの充実  
（学内施設の利用，人集め，PR）  
学生：単位互換制度の充実，転学科や転学部を容易にする  
教員：OB教員，リタイアされた教員，人材の活用

### 4 評価

学生：講義後のアンケート  
教員：出張講義の回数等，Extensionへの入学者数，PR活動のアンケート

## もうご班

司会者 松本 邦彦  
記録者 小関 文典  
発表者 佐藤 力哉

### 1 山形大学の理念・目標

校風：自主，自発，積極性，リベラル，独歩の精神

キャッチフレーズ：山形から世界

自然豊かな山形に生まれ，世界へはばたく

### 2 方略

タコ足大学のネットワークの強化策として  
学部を超えて学問を経験させる（教養教育を超えた教育）

### 3 実行計画

転学部の簡素化  
他学部履修の簡素化 他学部出張講義  
各キャンパス・地域にセミナーハウスを建設する  
山形大学行動委員会のもとに学部横断的な教育・研究を進める

### 4 評価

外部評価・学生評価の導入

# 全体会記録

総合司会 松崎 学  
記録者 湯浅 哲也

## 1 山形大学の理念・目標

多様な価値観の創造  
宣伝活動の充実  
社会との関わり  
人づくりへの貢献

## 2 方略

マスメディア，IT技術の活用  
授業形態の多様化  
人的交流により分散キャンパスのデメリットの克服

## 3 実行計画

既存の人的，物的資源を有効に活用

## 4 評価

客観的数値による評価

\*\*\*\*\*

B班への質問 東日本の定義は？

小中学生との交流とは？

C班への質問 全学的カリキュラム編成は必要か？

D班への質問 転学部を容易にすることは，現在の組織で実現可能か？

# プログラム 科目設計 1 :授業名と目標の設定」

## グループ作業記録

### はやおきどり班

司会者 高木 紘一  
記録者 新関 久一  
発表者 新関 久一

授業名 「インターキャンパス総合学習」  
(山形大学の個性を発揮する授業)  
キャッチフレーズ: 人的パワーを活用した大学における新しい総合学習

学習目標 学生がグループ活動を通して自主的な学習態度を身につける

到達目標

- ・問題提起が新しいかどうか
- ・調査方法が適切か
- ・チームワークを発揮したか(集団の貢献)
- ・分析から結論に至るプロセス
- ・プレゼンテーション
- ・討論を活発に行ったか

### べにばな班

司会者 山川 光徳  
記録者 広瀬 精二  
発表者 山川 光徳

1 授業名 山形の地域特性と地場産業(チュートリアル教育)

課題

ベニバナ, うこぎ, 樹氷, サクランボ  
福祉医療と高齢化社会  
酒の文化, そば, 温泉産業  
米沢牛・山形牛, エレクトロニクス産業  
芋煮会, 産業の歴史  
(キーワード) 地産地消

2 学習目標 山形の地域特性と地場産業の問題点を認識する。その歴史的背景を理解する。どのように問題点及び疑問点を解決していくかを提案し, 解決能力を身につける。

3 到達目標

調査能力を獲得する。  
問題解決能力を身につける。  
表現能力を身につける。

## 未 来 班

司会者 河野 芳春  
記録者 佐藤 力哉  
発表者 伊藤 廣記

授 業 名 「未来を考える」

21世紀の課題：地球環境問題  
言語（コミュニケーション）  
教育  
食糧（エネルギー）・貧困  
宇宙開発  
少子高齢化・介護（福祉）  
IT（情報）・都市開発

学生主体型（体験型）授業

上記課題から、5つ程度を選び、各課題につき3時間程度を予定

形態

問題認識      問題の公開      討論

（プレゼンテーション）

（情報収集体験）解決策の模索

（教員は、専門に合わせてサポート）

## おはな班

司会者 加々島慎一  
記録者 菊地 仁  
発表者 小関 文典

課 題 倫理性・公共性を培う授業

授 業 名 「環境問題を考える」  
＜グローバルな観点を重視する＞

授業の目標 身近な環境問題を取り上げる。  
フィールド調査に基づいて考える。（対策など）

到達目標 倫理性・公共性の観点から具体的提言をする。  
＜プロセスを重視する＞

受講者数 20～30人

担当教員 学部をまたがる複数名

## 職業意識班

司会者 樋口 喜啓  
記録者 渡邊 明彦  
発表者 伊藤 豊

授業名 「職業と将来のあなた」

学習目標 受講者が、自分の人生設計、職業選択、適性判断分析を行うことを可能にする。

到達目標 講師とのDiscussionを通じて、各種職業に関する具体的知識を習得する。

## 全体会記録

総合司会 神田 良照  
記録者 柳原 敦

### 授業名と目標の設定

#### 山形大学の個性を発揮する授業

##### 「インターキャンパス総合学習」

学生がグループ活動を通し、自主的かつ創造的な

#### 地域性と関連する授業：大学と地域の連携

##### 「山形の地域特性と地場産業」

地域特性と地場産業 歴史より問題点及び疑問点の把握，解決

#### 21世紀の諸課題に対応する授業

##### 「未来を考える」

学生による問題認識・問題解決模索

テーマの開示を教員が行うが、それ以後は学生主体で（教員はサポート）

#### 倫理性・公共性を培う授業

##### 「環境問題を考える」

身近な環境を取り上げ、フィールド調査を行い、倫理性・公共性を考える

対策の提言を行う

#### 職業意識と労働意欲を培う授業

##### 「職業と将来のあなた」

外部講師を中心に行う

講師とのディスカッションを通じて、各職業に関する知識を

\*\*\*\*\*

意見 全体的に学習目標が簡単すぎる

質問 「インターキャンパス...」 キャンパス間でディスカスする点が不明

「環境問題...」 結論が理想的な解決方向になるのではないか

新しい授業（少人数）への医学部の取り組みが報告された。

# プログラム 科目設計 2 :授業内容の作成」

## グループ作業記録

はやおきどり班

司会者 尾方 隆司  
記録者 木村 直子  
発表者 湯浅 哲也

授業名 「インターキャンパス総合学習」

到達目標 1 問題発見能力 4 プレゼン能力  
2 調査分析能力 5 コミュニケーション能力  
3 討議能力

学習方法 各学部ごとにグループ（5～6名）を編成

- 1 オリエンテーション，グループ編成
- 2 テーマ設定のためのグループ討議（アプローチ方法も含めて）
- 3 "
- 4 "
- 5 テーマ，アプローチ方法の発表（15分プレゼン，15分討論×6グループ）
- 6 "
- 7 テーマ等の修正，調査，分析
- 8 "
- 9 "
- 10 プレゼンのための準備
- 11 "
- 12 }
- 13 } プレゼン（30分）+ 討論（15分）× 6グループ
- 14 }
- 15 総括

学習のための資源

- 1 人的：各グループに教員1名（計6名）  
教員は指導するのではなく，支援・援助に徹する（L A）
- 2 物的：演習室（移動可能な机）  
プレゼン用設備

## べにばな班

司会者 山川 光徳  
記録者 広瀬 精二  
発表者 山川 光徳

授業名 山形の地域特性と地場産業

教養教育 後期

受講者数 40名

教員数 12名（各学部から2名ずつ）

チュートリアル教育方式

テーマ 6テーマ×2（前半・後半）

小部屋 6室 講義室 1室（全体討議と教員による講義）

### 実施計画

第1回 オリエンテーション，テーマの選択，班分け，課題抽出

第2～5回 チュートリアル形式（現地調査を含む）

第6回 全体発表会

第7回 全体発表会・教員からのコメント

第8～15回 第1～7回と同様の形式でテーマを変更

〔資料調査など〕 マルチメディア室，図書館，インターネット調査，現地調査など

〔チューターガイドの作成〕

〔チューターの指導〕



# 未 来 班

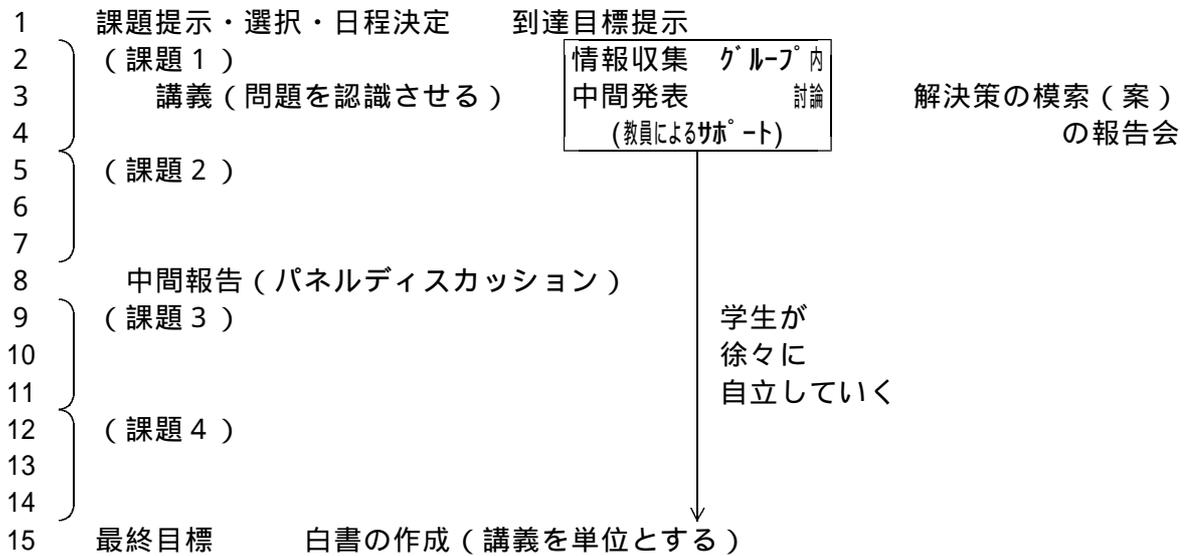
司会者 田北 俊昭  
記録者 伊藤 廣記  
発表者 柳原 敦

授 業 名 「未来を考える」

授業計画 プログラム を踏まえる

- ・事前準備
  - ・ 6学部 6 教員： 6 コマ（前・後期） 最大36名
  - ・ブレインネットワークの事前構築（産・官）
  - ・課題設定
  - ・受講者 1 コマ（ 6 人 × 3 倍 ） × 4 グループ = 72人  
6 コマ： 430人
  - ・媒体 インターネット，プレゼンテーション，S C S
- } 資源

## 講義スケジュール



## 到達目標

- 学生自身が
- ・問題を認識する。
  - ・収集した情報を集約する
  - ・解決策の模索を自発的に行う

# おはな班

司会者 中村 唯史  
記録者 加々島慎一  
発表者 中野 政身

授業名 「環境問題を考える」  
教養セミナー形式 20名(1グループ10名)

担当教員: 経済, 工学, 理学, 法律, 倫理 の5名(アドバイス)  
(人的資源)(コスト面)(技術)(自然環境)(人文)(教育)

## 授業計画

第1回 概論(オリエンテーション) 理念と説明, グループ分け  
第2回 テーマ「ゴミ問題」 プランニング

何をするか 予備調査  
フィールドをどこにするか  
アプローチ 問題の洗い直し

第3回 フィールド調査(例:ゴミ処理場, リサイクル)

第4回 まとめ

第5回 プレゼン・総括(ディベート)・報告書提出

第6回 テーマ「野生動物による食害」 プランニング

第7回 フィールド調査(山形の地の利を活かす)

第8回 まとめ

第9回 プレゼン・総括(ディベート)・報告書提出

第10~14回 自由テーマ

前2回と全く違うテーマでも良いし, 発展させたテーマであっても良い  
当事者を大学に迎えるか, こちらから出向いて話を伺う

1: 概論
2~5: テーマ1
6~9: テーマ2
10~14: 自由テーマ
15: 総括

ディベートしても良い

第15回 全体総括・報告書作成

物的資源: 場所 大学・現場(フィールド)  
媒体 写真・OHP・VTR・Power Point

予算: 交通費(大学~現地) 4~5万 その他(講師旅費)

到達目標 報告集を出す(学内, 授業関係者, 調査先当事者)

「ゴミ問題」という多様性のあるテーマを提示して, プランニングに関しては学生主体でテーマを設定する。今回は「ゴミ問題」「野生動物による食害」というテーマをあげているが, 毎年時流を見てテーマ設定を変更することもある。

## 職業意識班

司会者 伊藤 豊  
記録者 伊藤 貢士  
発表者 富澤 直人

授 業 名 「職業と将来のあなた」

到達目標 興味のある授業について、長所・短所を具体的に説明できるようにする。グループ作業（調査・研究）により得た情報を、他の参観者と共有する。

授業内容

- オリエンテーション
- 事前レポート（興味のある職業について）
- グループ分け（グループごとの話し合い，調整）
- グループ作業（調査・研究）
  - 複数の学部から 6～8 人
  - 調査方法・基礎研究・インターネット利用環境
- 中間レポート（ のまとめと次の 討論のレジюмеとして）
- 発表・討論
  - のレジюмеを資料にグループ内の対抗ディベート
  - 他のグループは応援団，批評
- ゲスト・スピーカー（有職者）の講演と質疑，実体験
- 最終レポート 自ら適性を分析できる。
- 何ができて，何ができないか 職業（就職）への意欲

資 源 人的（ゲストスピーカー） 媒体（インターネット環境）  
予算（ゲストスピーカーへの旅費・謝金）



# 全体会記録

総合司会 小貫 晃義  
記録者 小関 文典

## 授業内容の作成

### 1 発表内容

はやおきどり班

教員：Learning Assistant（各学部6名）

学生：5～6名 演習室 Power Point

到達目標：問題発見能力，調査，ディベートなどの能力

職業意識班

テーマ「職業意識と将来のあなた」

おはな班

環境問題を考える，ゴミ問題

未来班

未来を考える

中間報告，白書作成，テーマ4つ，72名定員

べにばな班

山形の地域特性と地場産業 定員40名

### 2 質疑応答

- ・予算について（職業意識班）：ゲストスピーカー等にかかると考えている
- ・定員・教員数・ゲスト・評価法
- ・ゴミ問題について（おはな班）：ゴミ問題はよいと思うが，学生に任せるのか  
学生に定めさせるつもり
- ・各学部6名などということは可能か，安直ではないのか  
このプログラムからすれば仕方ないだろうし，意味がある。
- ・フィールド調査：90分でできるのか  
民間人も考えている。
- ・プレゼンの知識の伝授に意を用いてもらいたい。  
大変だろうが，必要と考える
- ・プレゼンの経験が大事，あまり完璧を求めない方が良い。  
各学部というわけではない。適任者を求めている。  
教員どおしの学習の面もある。新しい教育の動きにもなる。

# プログラム 科目設計 3 :シラバスの完成」

## グループ作業記録

はやおきどり班

(授業科目名) インターキャンパス総合学習		(開講学年) 1 年
(授業英語名) Inter-campus Integrated Study		(開講学期) 後 期
(担当教員) (ローマ字) 高木 紘一 他 Takagi Koichi		(単位数) 2 単位
(教員の所属) 各学部の教員各 1 名		(開講形態) 演 習
(授業概要) みなさんは、それぞれの学部に、どんな問題意識を持って入学してきましたか？ この授業では、学部ごと 5～6 名 1 グループの集団活動を通して、問題意識を学問レベルで検討していく方法とプレゼンテーションを経験します。問題をどのように把握するか、その問題を追求するためにはどのような方法があるかなどについて、グループメンバーの積極的参加が重要です。また、他学部のメンバーが、どのような問題意識を持っているかについても学ぶことができます。		
(授業計画) 第 1 回 オリエンテーション (講義形態等の説明, メンバー編成) 第 2～4 回 テーマ設定のためのグループ討議 第 5・6 回 各グループによるテーマ, アプローチ方法の発表 (15分プレゼン, 15分討議) 第 7～9 回 調査, 分析 第 10・11 回 プレゼンのための準備 第 12～14 回 各グループによるプレゼンテーション (30分) 及び討議 (15分) 第 15 回 総括 (学生による自己評価等)		
(成績評価の方法) (1) 学生による評価 ・グループ間の相互評価 ・グループ内の自己評価 (2) 教員による評価 ・問題発見能力 ・調査分析能力 ・コミュニケーション能力 ・プレゼンテーション能力		
(テキスト)		
(参考書)		
(その他)	(履修に当たっての留意点)	
	(学生へのメッセージ等)	
	(担当教員の専門分野)	
	(自由記載欄)	

ペニバナ班

<p>(授業科目名) 山形の地域特性と地場産業</p>	<p>(開講学年) 1 学年</p>
<p>(授業英語名) Local character and industry of Yamagata</p>	<p>(開講学期) 後 期</p>
<p>(担当教員) (ローマ字) 各学部の教員</p>	<p>(単位数) 2 単位</p>
<p>(開講形態) 演 習</p>	
<p>(教員の所属) 各学部から 1 名ずつ</p>	
<p>(授業概要) 山形の地域特性と地場産業の問題点を認識する。また、それらの歴史的背景も理解する。6～7名の学生と1名の教員で1グループとし、前半と後半でグループを組み換える。前半及び後半それぞれ6グループとする。各グループは、下記の課題の中から1つを選び、各学生が主体となってそれについて調べ、調査能力を獲得する。また、各グループでのグループ討議において、その問題解決能力も身につける。さらに、各グループを代表して発表するための準備などで表現能力を身につける。なお、各課題ごとに必ず1回の現地調査を行う。各グループごとに最終報告書(レポート)を必ず提出する。</p>	
<p>(授業計画) 第1回 オリエンテーション(前半と後半の班分け及び課題の選択) (前半)第2～6回 グループ討議 第7・8回 3つの課題について、学生の発表、質疑応答、教員のコメント (後半)第9回 グループ討議 第14・15回 3つの課題について、学生の発表、質疑応答、教員のコメント 課題：ペニバナ、うこぎ、樹氷、さくらんぼ、福祉医療と高齢化社会、酒の文化、そば、温泉産業、米沢牛と山形牛、エレクトロニクス産業、芋煮会、産業の歴史(計12課題)</p>	
<p>(成績評価の方法) グループ討議の際に、そこに所属する教員が、各学生1を、その授業ごとに評価する。(70%) 全体での発表の際に、6名の教員(20%)及び各学生(10%)が発表グループごとに評価し、その点数をそのグループに所属する各学生の点数とする。</p>	
<p>(テキスト)</p>	
<p>(参考書)</p>	
<p>(その他)</p>	<p>(履修に当たっての留意点)</p> <hr/> <p>(学生へのメッセージ等)</p> <hr/> <p>(担当教員の専門分野)</p> <hr/> <p>(自由記載欄) 受講可能な学生数を42名までとする。</p>

未 来 班

<p>( 授業科目名 ) 未来を考える ( 総合 )</p>	<p>( 開講学年 ) 1 年</p>			
<p>( 授業英語名 ) Problems in the Future</p>	<p>( 開講学期 ) 前期または後期</p>			
<p>( 担当教員 ) ( ローマ字 ) 未来班グループ</p>	<p>( 単 位 数 ) 2 単位 ( 開講形態 ) 講義・演習</p>			
<p>( 教員の所属 ) 全学部</p>				
<p>( 授業概要 ) 21世紀の抱える諸問題 ( 環境・エネルギー・コミュニケーション・言語・少子高齢化・介護・福祉・情報・通信・都市開発・食糧・貧困・教育・宇宙開発など ) について学生自身が認識し、体験学習を通じて、情報を収集・公開し、解決策に対する学問的模索を行う。受講者の上限を80名とし、20名 ( 6学部から3人ずつ、学部によっては4名 )、4グループで上記のテーマの中から指定した4つのテーマを取り扱う。</p>				
<p>( 授業計画 ) 第1回 課題提示 第2～4回 テーマAの設定 ( 問題提起 中間報告 解決案の提示 ) 第5～7回 テーマBの設定 ( " ) 第8回 パネルディスカッション 第9～11回 テーマCの設定 ( " ) 第12～14回 テーマDの設定 ( " ) 第15回 最終報告及び白書作成 ( 参考 ): 課題提示 - 全体の問題認識 ( A～D ) - 4テーマの担当教員の協力 テーマ別の問題提起 ( 2, 5, 9, 12回 ) - 各テーマの複数分野 ( 理学, 工学, 医学, 農学, 人文, 社会科学分野 ) の協力</p>				
<p>( 成績評価の方法 )</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><b>個人</b> ・現状把握 60% ・解決するためにどのようなことを学習しようとしているか?</p> </td> <td style="width: 5%; text-align: center; vertical-align: middle;"> </td> <td style="width: 45%; vertical-align: top;"> <p><b>グループ</b> ・発表能力 40% ・まとめる力 ( レジюме ) ・ディスカッション</p> </td> </tr> </table>		<p><b>個人</b> ・現状把握 60% ・解決するためにどのようなことを学習しようとしているか?</p>		<p><b>グループ</b> ・発表能力 40% ・まとめる力 ( レジюме ) ・ディスカッション</p>
<p><b>個人</b> ・現状把握 60% ・解決するためにどのようなことを学習しようとしているか?</p>		<p><b>グループ</b> ・発表能力 40% ・まとめる力 ( レジюме ) ・ディスカッション</p>		
<p>( テキスト ) 課題に応じた資料を配付</p>				
<p>( 参考書 ) 講義の中で適宜紹介する。</p>				
<p>( その他 ) ( 履修に当たっての留意点 ) グループ内で役割 ( 発表者, 記録, 司会等 ) の分担を公平にすること</p> <hr/> <p>( 学生へのメッセージ等 ) 所属分野を越えた学問領域の広さに対する理解を深めたい。</p> <hr/> <p>( 担当教員の専門分野 ) 各テーマとも全領域 ( 学外講師も含む, 産官の協力含む )</p> <hr/> <p>( 自由記載欄 ) 学部を越えた多種多様な解決方法を用いて、グループ全体で議論し、結論を導き出すこと</p>				

(授業科目名) 環境問題を考える	(開講学年) 1 学年
(授業英語名) Thinking on the Enviromental Problems	(開講学期) 前 期
(担当教員) (ローマ字) 各学部の教員	(単位数) 2 単位
(開講形態) 演 習	
(教員の所属) 人, 教, 理, 工, 農学部	
(授業概要) 身近な環境問題を取り上げ、フィールド調査に基づいて、具体的な対策の提言を行います。その過程で、観察力、調査能力、発表能力、議論する能力を身につけます。 最初の時間に2つにグループ分けを行い、大まかなテーマを示すので、調査計画や役割分担を各自で決め合います。その後、実地調査を行った結果を各グループでまとめた上で、グループごとに発表し、議論します。このプロセスでは、複数の教員が、それぞれの専門の立場からアドバイザーとして助言します。 最後の5週は、各グループが自分達でテーマを設定し、立案から報告まで自主的に行います。 この授業を通じて環境問題を多面的に捉え、倫理性や公共性について考えます。	
(授業計画) 第1回 概論(オリエンテーション) 第10~14回 自由テーマ 第2回 テーマ「ゴミ問題」プランニング 第15回 全体総括・報告書提出 第3回 フィールド調査 第4回 まとめ 第5回 プレゼン・総括(ディベート)報告書提出 第6回 テーマ「野生動物による食害」プランニング 第7回 フィールド調査 第8回 まとめ 第9回 プレゼン・総括(ディベート)報告書提出	
(成績評価の方法) ・出席 15点(個人別) ・レポート 30点(グループ別) ・報告 20点(グループ別) ・最終レポート 25点(個人別) ・ディベート 10点(個人別)	
(テキスト) 特に用いない。	
(参考書)	
(その他)	(履修に当たっての留意点) フィールドワーク調査は、授業時間外に、学外で行われる場合もあります。
	(学生へのメッセージ等) 受講可能人数は20名です。
	(担当教員の専門分野) 法律・経済・倫理・環境工学・技術・農学
	(自由記載欄)

## 職業意識班

(授業科目名) 職業意識と将来のあなた	(開講学年) 1 年
(授業英語名) Job and you in future	(開講学期) 後 期
(担当教員) (ローマ字) 伊藤 直人, 樋口 明彦 Ito Naoto, Higuchi Akihiko	(単位数) 2 単位 (開講形態)
(教員の所属) 全学部	
(授業概要) 将来(3年後)のあなたが選ぶ職業はどのようなものでしょうか。履修者が自ら興味を持つ職業についてのグループ活動を通じて、調査・研究し、その長所・短所を明らかにして、対抗ディベートを行います。また、数名の有職者を招待し、講義・討論を通じて自分達の議論を現実の視点から検証し、将来の職業について客観的な評価判断を踏まえて選択し、明確な職業意識を持てるようにしよう。	
(授業計画) 第1回 オリエンテーションと作文(興味のある職業) 第2回 グループ分け(グループ内の話し合いと調整) 第3～6回 グループ作業(調査・研究) 調査方法や基礎文献, インターネット利用, 中間レポート提出 第7～11回 発表・討論 中間レポートを討論資料として, グループ内の対抗ディベートを行う。 各回に2グループ×5回 他グループは批評を加える。 第12・13回 ゲストスピーカー(有職者)2名の講義と質疑応答 第14回 全体総括討議 第15回 最終レポート作成(個人作業)	
(成績評価の方法) 中間レポート(当該職業について長所・短所が具体的にまとめられているか) = 20点 期末レポート(当該職業に対する自己の適性について根拠のある自己評価ができているか) = 50点 発表・討論(自分の選んだ職業についてどのような長所・短所があるか, どのような準備が必要かについて自覚的かつ具体的に表現できているか。発表内容(準備・作成)と議論への貢献度) = 30点	
(テキスト) 文献リスト配布, インターネット資源	
(参考書)	
(その他)	(履修に当たっての留意点) (学生へのメッセージ等) (担当教員の専門分野) (自由記載欄) 1グループ6名(できる限り複数学部の学生で構成)×10グループ=60名(リミット)

# 全体会記録

総合司会 伊藤 豊  
記録者 富澤 直人

## はやおきどり班 インターキャンパス総合学習

- ・ 学生が興味を持っている問題を自ら設定
- ・ グループ内の相互評価  
グループ内の自己評価  
教員による評価（問題発見能力，調査分析能力，コミュニケーション能力，  
プレゼンテーション能力）

## べにばな班 山畑の地域特性と地場産業

- ・ グループ討議 教員のコメント，全体発表
- ・ 現地調査
- ・ グループ討議の際（教員70%）+ 全体発表（教員20%，学生10%）

## 未 来 班 未来を考える

- ・ 21世紀の抱える問題：学生自身の認識，体験学習 解決策
- ・ 課題を提示・講義・中間報告...最終報告
- ・ グループ（発表能力，まとめる力，ディスカッション = 40%）

## おはな班 環境問題を考える

- ・ 身近な問題について，フィールドワークを通じ，具体的な対策を提言する。
- ・ プレゼン，総括ディベート
- ・ 出席15点，報告20点，ディベート10点，レポート30点，最終レポート25点

## 職業意識班 職業と将来のあなた

- ・ 自ら興味を持つ職業について，グループ活動，対抗ディベート，有職者の講義，討論
- ・ 中間レポート20%，期末レポート50%，発表・討論30%

\*\*\*\*\*

- ・ テーマの自由設定（学生主体と方向性の支援（人間関係づくり）のバランス）
- ・ 学生による成績評価のメリット
- ・ フィールドワークの実現可能性
- ・ 成績評価の難しさ

# 各プログラムの記録【第2チーム】

## プログラム 「山形大学のニーズと課題」

### グループ作業記録

全科一班

司会者 奥村 淳  
記録者 横山 道央  
発表者 今田 恒夫

#### 1 山形大学に何が求められているか?

〔社会から大学〕

- ・開放（地域，全国） - 図書館，博物館（土，日，夕方，夜も）  
授業（市民が入れる公開講座），リカレント

- ・優秀な人材の育成

〔大学から社会〕

- ・地域への利益還元

例：芸工大，山短などのセミナー，展覧会

山大はアピールが足りない。出前講義（人文，工...）

広報が窓口 仕事の簡素化

教員が積極的に外に出る必要

大ホールより公民館など

〔学生（保護者）のニーズ〕

- ・インフラの整備 - 全教室エアコン，視聴覚機器  
パソコンを24時間使える（インターネット）など  
数人で集まる部屋がない（医）
- ・舗装駐車場，見た目カラフル，噴水など
- ・知識（知の楽しみ），能力，就職対策，資格進路サポート，企業訪問，学部ごと実施

#### 2 山形大学の置かれている状況分析

（短所）

開放 マンパワー不足 学生活用

（長所）

分散キャンパス 局在  
人材発掘 未

地域密着

- ・学部間情報交換 メール配信などやっては？

- ・サテライト授業

#### 3 現実的な制約・問題点・改革の必要性など

- ・資金不足

- ・マスコミ活用，売り込み

## 上 杉 班

司会者 平田 俊博  
記録者 井坂 秀治  
発表者 平中 幸雄

社会からのNeeds 地域に広く

学生からのNeeds 就職？ 大学院進学？  
入学は低く...でる時に ” 育成 ”

求められるもの ” 地元 ”

- ・社会 地域文化と経済の活性化のために不可欠（こちらからさらにUP）
- ・学生 資格と就職 不足？  
入りやすく出る時に一流の技術

**長所**

- ・分散
- ・地域性
- ・衣食住
- ・自然（フィールド） 人々
- ・学生数
- ・企業（密接）

**短所**

- ・駐車場の整備 県・市との協力
- ・田舎 - 都市計画（インフラ）  
行政の不備  
活性化
- ・学生不足 医，工，農
- ・就職...人材（数）不足

改革

- ・小白川3学部COE
- ・情報共有
- ・キャンパス間コミュニケーション意識，技術的改善
- ・ネット環境
- ・駐車場整備・拡充

## まだですか班

司会者 佐藤 清人  
記録者 小田 友弥  
発表者 佐藤志美雄

社会のニーズと地域のニーズを捉えて討議。

最初に各学部のニーズをあげた。例えば，人文学部へは政策的提言・貢献，教育へは地域の実情を踏まえた教員養成，理学へは科学の進歩，最新の研究成果の発信や一般向け体験学習，農へは地場産業の悩みに応える，工へは最新の成果の発信と地場産業の活性化など。

学生のニーズは，一般的で固有のものがない。推薦入学者は動機が高い印象。こちらの情報提供に反応し，教員にひかれて入学する者や大学院への踏み台と捉える者もいる。

長所・短所は，例えばタコ足大学であることは地域に密着しているが，人事面で制約となるなど，種々取り上げられたが，地域のニーズと大学の組織や方向をどのように調和するかに問題がある。この垣根をどのように取り除くかを論議した。学部には違いがあるので，経済効率にのみとらわれない大学と社会を結ぶ接点が必要。ニーズの受け皿となるホームページ等も開設した方がよい。地域のニーズに対応すべく，学部の組織を越えたものを構築すべきではないか。

## ドリーム班

司会者 那須 稔雄  
記録者 合田 正毅  
発表者 大町 竜哉

田舎に特色ある

地域が求めるもの

教員養成大学への地域の要請，地域のエゴが  
卒業生を山形県へ

教員は地域に密着していない？

子供を近場で高等教育を受けさせて，地元に戻ってくることを望んでいる。

地元の高校生を受け入れてほしい。

農，地場産，特産物

個人商店 法人化によるトップダウンによる特徴

田舎に雰囲気のある大学 何か光るもの

大学と市民との関わりが弱い(ない)

重要な指摘

医 血液 COE 市民との関わりある

特化への疑問

山形大学の分散型大学を活かせる

大型LANを導入

地域の理想像とサポートする  
機関としての大学の対応策

地域との関わりを回復する

高度の光輝くもの

両方が必要

学生のニーズ

総合大学 ・入学後の移動，転学科

・工：入学は，入りやすいところに入る。

入ってきた学生は変わり，工学を活かしたいと思う。

・海あり山あり，自然環境は素晴らしい。

環境レジャーセンター リゾートカレッジ

## すいかわり班

司会者 野堀 嘉裕  
記録者 大槻 恭士  
発表者 高倉 新喜

### 1 山形大学に何が求められているか？

・社会は「実践的な人材を求めている」

公務員養成(人，農) 教員(教)

中小企業(工，教) 医師(医)

・学生のニーズ 「全国の企業への就職」(工，農等技術系)

「地元の企業への就職」(人文，教育)

### 2 山形大学の置かれている状況分析

・短所：分散(経済的)

・長所：分散(人的) - 地元への手厚いケア，高等教育(文化の香り)

・地域性を活かした教育

課題 - FDが生きること

### 3 現実的な制約・問題点・改革の必要性など

・時代の移り変わりに対応するダイナミックな教育・研究の実現

・地域性を活かす

## 全体会記録

総合司会 奥村 淳  
記録者 横山 道央

A : Q : "山形"をとっても通用するか？

A : 山形の他大学でやっていて、山大でやっていないことを考えた。  
(山形ならではでない)

B : Q : 長所「自然」と短所「田舎」の違いは？

A : 文化施設不足とところ安らく。

C : Q : 各学部バラバラでまとまりがないのではないかと？

A : 各学部特色があって良い。  
全体ということでは、地域社会の教育研究サポート

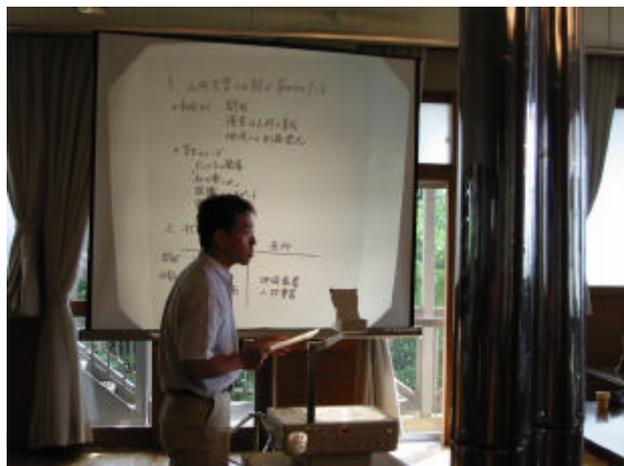
D : Q : リゾートカレッジとは？

A : 具体的に詳しくはないが、山大の特色：楽しい  
海，山が近くにあり，その楽しさを入る学生にアピール  
地場産業，観光活性化へ

E : Q : 学生のニーズが就職しかないのは寂しいのでは？

A : 切実な問題。実績が評価される。

意見 リゾートカレッジ：賛成 さくらんぼ，温泉，そばなど 保護者にも発信  
就職だけではなく，知の楽しみも。学生の声が届いていないのでは？  
学部ごと，硬直的な発想しかない。そこをFDで改善。 プログラム で  
輝くものとは？ 具体的にはまだ。風格のある大学のための何か。  
山形県全体で何を望んでいるか？それに山大全体で応じることが「輝く大学」



# プログラム 「山形大学をどのような大学にするか」

## グループ作業記録

全科一班

司会者 山口 常夫  
記録者 森井 俊広  
発表者 中島 和夫

### 1 理念・目標

自然

校風 従来の落ち着き，謙虚さを活かさないか  
地域密着の雰囲気で作れないか 学生は魅力を感じないのでは。  
自然，あるいは温泉，そば，さくらんぼ  
ツールであり，校風には持っていけない

キーワード

「山形学」...山形の文化・歴史，自然，風土を知ることにより，良いところを受け継いだ人材を育てる。

キャッチフレーズ『山形学を通して自文化を！』

### 2 方略

山形を知ること...山形，米沢，鶴岡の文化，歴史，今を捉える。  
各学部の地域密着性の活用（分散キャンパスの利点を活用）  
授業として取り込む

### 3 実行計画

- ・企画 1年次 山形市・山形を知る - フィールドワークを加える。  
2年次 各地域を知る - NGO，地元などから，様々なテーマを設定する。  
少人数でこれらに参加させる。  
3年次 各地域を知る - 自分に何ができるかを学生に問う。企画書を作らせる。  
アクションとして何ができるかを考えさせる。  
この中から良いものをセレクトして実行する。
- ・資源 一部自己負担，企業

### 4 評価

追跡調査（卒業生）  
「学生の年度ごとの成績評価」の評価  
訪問先からの評価



## 上 杉 班

司会者 大久保 博  
記録者 久保田 功  
発表者 平田 俊博

### 1 山形大学の理念・目標

キャッチフレーズ「青春うず巻く山形大学！！」

目標：チャレンジ精神 地域から信頼・期待される学生を育てる山形大学  
「山形大学に入ると何かが変わる」 青春：山大マインド

### 2 方略

小白川3学部のCOE，他研究科とも交流

優秀な受験者を集める 入試改革

オープンキャンパス 体験入学

インターンシップの充実

生涯教育・リカレント教育

元気のある在學生に元気のある高校生  
を受験（入学）させるようにする

### 3 実行計画

高校・両親に積極的に働きかける。 大学開放

メディアの利用（ラジオ，テレビ，新聞）

国際交流・国内他大学との交流

学内賞，表彰制度

### 4 評価

・教育システムの外部評価

・サークル活動の達成度

・地域による（外注）評価

・ボランティア活動

・フィードバックシステム

## まだですか班

司会者 中内 祐二  
記録者 下平 裕之  
発表者 塩野 義人

### 1 山形大学のキャッチフレーズ

「間口と奥行き幅広い大学」 間口 入りやすい・社会に対して開かれている  
奥行き 総合大学として多様な研究・教育が可能

### 2 実現のための方略

・入試システムの多様化

・転学部・転学科

・単位互換

・各学部間の授業の公開（テレビ講義システム）

### 3 実行計画

入学者ニーズ調査（短大，高専，社会人（夜間））

入口と出口を統括する組織の形成

### 4 評価

・教員の意識改革 出席だけではダメ 学生の理解度を測るシステムを作る

・学生に目的意識を持たせる 持てなかった学生へのケアも必要

・1～2年で達成度の条件（進級条件）をつける。

・表彰制度の導入

## ドリーム班

司会者 菅原 陸郎  
記録者 首藤 若菜  
発表者 飯田 俊彰

### 1 山形大学の理念・目標・キャッチフレーズ

地域の理想をサポート  
高度の光り輝く研究  
豊かな自然が知を育む

### 2 方略

地域の理想をサポート

- ・ 大学と地域住民・地方自治体との交流を深める。
- ・ 市民に開放されたキャンパス作り  
具体案) 公開講座，出前講座 / 大学施設の開放  
地域との共同研究の活性化 / 質問受付窓口を設置  
地域から研究テーマを募集する

高度の光り輝く研究

- ・ 地域から募集したもの，共同研究の中からテーマを探す
- ・ 広報活動の強化：積極的に県内，国内に発信する

豊かな自然が知を育む

- ・ 授業カリキュラムの中で，体験プログラム（自然とのふれあい講義）を，より多く組み入れる。
- ・ 学生の活動（サークル等）でも，大学の使節を積極的に使えるようにする。

### 3 実行計画

インフォメーションセンターの設立（学部を超えた一本の窓口を作る。）  
資源の獲得 - 国費，市，県，観光関連の企業等  
卒業生からの寄付金

### 4 評価

共同研究への数値目標

学生アンケート（山形大学に入って，山形の自然の豊かさの認識が変わったかなどのアンケートをとって，変化を見る。）

大学施設の利用者数をカウント

フィールド科目を選択した学生数



## すいかわり班

司会者 川前 金幸  
記録者 豊田 東雄  
発表者 向田 昌志

山形大学の資源 「優秀な学生」 そのような学生を世に出す

山形大学をどのような大学にするか

### 1 山形大学の理念・目標

努力により目標を実現できる力（教養）

Study

劣悪な環境 雪，交通（立地） 大型LAN

「なせば成る」 忍耐，努力する力 就職後伸びる

### 2 方略 - 考えられる方法・実現の可能性 -

教員と学生によるFD：タイアップディベート，イベント企画

持続的FD：忍耐，努力（できる力を持つ学生を育てる）

Plan

構成員全員によるFD：意見の吸い上げ

学部間コミュニケーション

### 3 実行計画 - 主な活動，資源，時期，担当，責任，企画 -

教養教育重視：人間教育，協調性があり自己アピールできる

自己表現できる学生：プレゼンテーション，ディベート

Do

入試と教育：多様な入試（面接），ディベート教育，研究室セミナー

評価部門創設：OBトレース...あの授業が良かった

### 4 評価 - 測定方法，学生，教員 -

卒業生の追跡調査

Feedback

学生によるアンケート

企業から山形大学システムの評価



# 全体会記録

総合司会 井坂 秀治  
記録者 平中 幸雄

- 発表**
- 1 上杉班 「青春うず巻く山形大学」  
歴史のあるキャッチフレーズ  
目標：チャレンジ精神 方略：優秀な学生を集める
  - 2 ドリーム班 「地域の理想をサポート」「高度の光り輝く教育」  
「豊かな自然が知をはぐくむ」  
方略：施設の公開，インフォメーションセンター立ち上げ  
評価：共同研究，来学者数
  - 3 まだですか班 「間口と奥行き幅広い大学」  
学生も地域の人入りやすく（間口），総合大学として充実（奥行き）  
方略：地元へアピール 評価：教員意識改革度，学生の興味，理解度  
コメント：優秀な学生を集める努力が必要であろう
  - 4 全科一班 「山形学を通して自文化を！」  
自慢できる文化と人材 方略：歴史を学び考える，フィールドワークを行う  
計画：1年，2年，3年と目標を設定する
  - 5 すいかわり班 「なせば成る」  
理念：大学の財産は学生である，忍耐と努力，就職してからも伸びる  
方略：教員と学生によるFD  
計画：実地的な教育と自己表現能力開発，強化部門の創設  
評価：企業人から見た教育評価，OBトレース（卒業後の経過を追う）

- Q & A**
- 1 上杉班に対し  
Q：計画の程度はこれまでやっているのではないか。  
A：なせば成るでやる必要がある。
  - 2 ドリーム班に対し  
Q：分散的で「待ち」では？ A：3つがまとまって効果がある。  
Q：光り輝くものは磨かなくて良いのでは？ A：やはり磨かないと  
Q：学生関連では？ A：リゾートカレッジ，フィールド学習を考えている。
  - 3 まだですか班に対し  
Q：キャンパス統合は考えていないのか？ A：考えていない。  
Q：受入範囲が広がると混乱するのでは？ A：対応できるもので対応する。
  - 4 全科一班に対し  
Q：全科一班という割には，文系に偏っているのでは？  
A：自然や環境の分野で理科系もある。  
Q：学生を自慢するのか，大学を自慢するのか？ A：広い意味で大学  
Q：「山形学」は間口が狭いのでは？ A：気持ちとしては広く  
Q：評価にOBとあるのは？ A：慶応の同窓会をイメージした。
  - 5 すいかわり班に対し  
Q：「なせば成る」と計画の関係は？  
A：耐えて実現する力を持たせることにある。  
Q：卒業時の評価と，その後は必ずしも一致しないのでは？  
A：フィードバックをかけながら評価する  
Q：刻苦勉励型は学生に受けないのでは？ A：鍛えられる学生が来ている  
Q：教養教育が重要な理由は？ A：人格的なものも含め，必要  
Q：劣悪な環境というほどではないのでは？  
A：米沢の場合，冬の雪はそう言っても良い。その他は非常によいところ

## グループ作業記録

### 明日の山大班

司会者 小田 友弥  
記録者 大町 竜哉  
発表者 奥村 淳

- 1 授業名 「山形を味わう」  
(「味わう」には食物の他に自然を含む)
- 2 学習目標
  - (1) 踏まえておく事柄
    - ・ 味わいたい物事に対し，学生が企画・立案・調査する。
    - ・ 企画をプレゼンテーションし，訪問場所を決める。
    - ・ 4つのキャンパスすべてを回れると良い。
  - (2) 学習目標の記述
    - 授業の目標
      - ・ 山形の風土を通して，山形の良さを発見する。
      - ・ 風土は，人間・自然・文化・地場産業を含む。
    - 到達目標
      - ・ 山形の良さを認識し，他県に対して山形の良さを発信することができる。
      - ・ 企画・立案，調査，プレゼンテーション能力を獲得する。
- 3 山形大学の個性  
山形県の地域性，食文化，分散キャンパスゆえに県全域に足を伸ばせる。
- 4 授業概要  
1グループ4，5人のグループ学習とし，8グループ 40名とする 前期開講



## 青春班

司会者 塩野 義人  
記録者 中島 和夫  
発表者 合田 正毅

- 1 授業名 いま時代を動かす山大OB
  - 2 学習目標 日常の授業・研究が、地域の企業活動にどのように活かされていくかを体験・学習する。  
レポートと発表及び講師への依頼書類や礼状などにより、体験をまとめる力を獲得する。
  - 3 到達目標 地域との連携強化  
就職率の向上  
学生の能動的学習力の向上
  - 4 学習方法 地域で成功し、活躍している卒業生の講演  
- 学長講義「山大マインド」と連携して、人気のあった講演者を選択するの一案  
職場訪問し、先輩インタビュー、ビデオ編集  
発表会 ( )レポート ( )プレゼンテーション  
( )ビデオ鑑賞 ( )相互評価  
礼状
- 問題点 あらかじめ地域との共同研究を育てておく  
講師に荣誉称号(謝金の代わりに) 例:平成15年度山形大学特任教授

## なせば成る班

司会者 佐藤 清人  
記録者 川前 金幸  
発表者 横山 道央

- 1 授業名 なせば成る21世紀の諸課題
- 2 授業目標 学生が自らの力で、複雑な「21世紀の諸課題」を理解することができる。  
それらの解決方法を共に考え、共に行動することができる。
- 3 到達目標 シンクグローバル アクトローカリー  
アクトグローバル シンクローカリー
- 4 問題(学生にあげてもらう)
  - ・地球温暖化
  - ・人口問題
  - ・食糧問題
  - ・A I D S
  - ・エネルギー問題(原子力)
  - ・平和(テロ, 民俗, 南北問題)

## 花 笠 班

司会者 山口 常夫  
記録者 久保田 功  
発表者 下平 裕之

- 課 題 倫理性・公共性とは？  
人工授精，公害，J A B E E（工学部） 技術者倫理，内部告発，非社会的  
経済学 道路，公園 私的・共同ルール  
学生に考えてもらうプログラムとする  
課題 安楽死，臓器移植
- 作 業 1 倫理性・公共性に関する学際的演習
- 作 業 2 複数の学部が関与  
新聞の記事 - どう考えるか  
課題について，境界領域を，Yes，Noに分けて討論させる。  
倫理性・公共性を十分に修得  
すべての学問分野に倫理性・公共性がある。
- 授業目標 幅広い領域において，倫理性・公共性を判断する。 バランスの取れた思考
- 到達目標 技能 幅広い情報を入力する 偏った見方ではなく，肯定的，否定的  
倫理性・公共性を深く考察する姿勢，態度，習慣を身につける

## どうでもいい班

司会者 豊田 東雄  
記録者 中内 祐二  
発表者 首藤 若菜

- 課 題 職業意識と労働意欲を培う授業  
検討方針 社会的ニーズ：社会 学生を含めた社会
- 授業の構成 ・ 現場見学・体験労働と動機付けを柱に  
働くこととは何か？ 何故働くのか？  
学生の興味に対してガイダンスを行う。  
・ 学生と社会との接点を  
知る 教員による動機付け（実例を踏まえて）  
見る（体験） 工場ほか，労働の現場の見学  
聞く 現場の人を講師として招待するほか  
考える・調べる 学生同士の討論ほか
- 講義タイトル 「社会との接点セミナー」
- 授業の目標 社会と大学との接点を理解し，大学4年間の学習の意味を知り，大学生活及  
び卒業後の人生設計を描けるようになる。
- 到達目標 4年間のうちに自分の適性を知り，自分の進路を設定できるようになる。
- 対 象 1年次 20名程度

# 全体会記録

総合司会 野堀 嘉裕  
記録者 那須 稔雄

## 明日の山大班 「山形を味わう」

山形の良さを認識，企画・調査し，プレゼンテーション能力を獲得する。

前期 40名 8グループ

山形の自然・食文化，分散キャンパスの利点

## 青春班 「いま時代を動かす山大OB」

卒業生に講演してもらう。職場訪問を行う。礼状を書かせる。

先輩インタビュー，レポート，プレゼンテーション，相互評価を行う。

地域性と地域との連携

## なせば成る班 「なせば成る21世紀の諸課題」

地球温暖化，人口，食糧，A I D S ，エネルギー，原子力

目標：複雑な諸課題を認識し，理解する。

到達目標：シンクグローバリー アクトローカリー

## 花笠班 「倫理性・公共性に関する学際的演習」

学習目標：複数の学部が関与。はじめに総論

授業目標：幅広い領域において倫理性を判断する姿勢を身につける。

到達目標：バランスの取れた思考ができる。

## どうでもいい班 「社会との接点セミナー」

学生数20名 1年生

前：社会を知る 中：見る，聞く，体験 後：考える，調べる

授業目標：社会と大学の接点を理解する

到達目標：自分の適性を知り，職業選択につなげる 人生設計できるようになる

### Q & A

#### 1 明日の山大班に対し

Q：山形の自然・風土に偏りすぎているのでは？

A：分散した地域の多様な人材があるのでOK

Q：食の文化については？ A：芋煮会

Q：開講期がずれていないか？ A：冷凍のものを使うので大丈夫

#### 2 青春班に対し

Q：インタビュー先はどこか？ A：OBであればOK

Q：1回の講義で何カ所も行くのか？ A：いくつか可能

Q：基盤作りとは？ A：大学側が常に共同研究の窓口を開けておく。

Q：ビデオ編集のコンセプトは？ A：何を知りたいのかを設定し，編集

#### 3 なせば成る班に対し

Q：大きな課題を15回でできるのか？ A：オムニバス形式で全学

#### 4 花笠班に対し

Q：総論が重要になるか？ A：具体的な例示を学際的に紹介する

# プログラム 科目設計 2 :授業内容の作成」

## グループ作業記録

明日の山大班

司会者 今田 恒夫  
記録者 奥村 淳  
発表者 大槻 恭士

授業名 「山形を味わう」

学習（授業）プラン

- 1 オリエンテーション - 参加希望者は次回にテーマを持ち寄る
- 2 グループ分け - グループごとにテーマを決定  
(発表前の教員チェック。レポートなどによる) 30名 6班とする
- 3 各グループのプラン発表とディスカッション  
(発表後の教員チェック。レポートなどによる)
- 4 }  
5 } 丸1日(土または日)を費やしてフィールドワーク  
6 } 土日がつぶれるのをいとわない, やる気のある学生  
7 } 授業4回分とする。
- 8 各グループ中間発表(10分発表+5分質疑応答)
- 9 修正プランプレゼンテーション
- 10 }  
11 } フィールドワーク(土または日, 短めに1日)  
12 } 授業3回分とする。
- 13 } 最終発表会 - 各班30分 質疑応答のディベート 相互評価のコンテスト形式
- 14 }  
15 自由発表会(芋煮つき・表彰あり) - 芋煮は生協などの調理による

各訪問先(商工会議所など)に対する学生, 教員によるアポと学生によるお礼状  
保険加入と公共機関利用  
使い捨てカメラ1台支給(学生所有ビデオ可)  
冊子作成と訪問先などへの配布  
交通費, カメラ代, 食材代などの予算面の手当が必要



## 青春班

司会者 塩野 義人  
記録者 中島 和夫  
発表者 合田 正毅

授業名 「いま時代を動かすOBたち」  
山大OBの中から(「山大マインド」の講師も活用),山形周辺で,第一線で活躍している人達を5人選ぶ。

授業 第1~5回 講義(各講師による体験談)  
第6・7回 講師5人×10人(学生)=50人 振り分け,調整,計画書作成  
第8~11回 現場訪問,先輩インタビュー,記録作成(デジカメ,ビデオ等)  
第12・13回 HP作成,編集 レポート作成,礼状(レポート形式)  
第14回 プレゼンテーション  
第15回 プレゼンテーション・総合討論

## なせば成る班

司会者 野堀 嘉裕  
記録者 井坂 秀治  
発表者

授業名 「なせば成る21世紀の大問題」

学習戦略 ・問題意識(モチベーション)を持つための講義  
・学生(班別)の討論 ディベートを主体  
・学生にとってのFDを目指す課題設定  
・"なせば成る" "グローバル&ローカル"を身につける

学生数 約100名(10名を1グループで10班程度)

学習方法 ・始めに班別の討論と課題=21世紀の大問題を提案  
(教員側からキーワードを提供) 班別に討論し,まず"アウト"の解決策を  
・講義6回,教員サイドの問題提起 ・再討論 ・総括

授業 第1回 ガイダンスとグループ分け  
第2・3回 討論・調査  
第4回 発見  
第5~10回 各課題ごとの講演(6名)  
第11・12回 総論 山大的エキス!"なせば成る"  
第13回 再討論(グループごと) グループ内を2つに分けてディベート  
第14回 プレゼンテーション(全体)  
第15回 まとめ

資 源 人的 各学部から4~5人のチームでコーディネーターを編成  
3年ごとに入れ替え 講師は6名

物的 ・情報処理 ・調査・分析 ・プレゼンの会場・設備

予算 なし?

## 花 笠 班

司会者 佐藤志美雄  
記録者 久保田 功  
発表者 山口 常夫

授業計画 総論 - 2回 倫理とは何か？  
講義 沼澤副学長 平田先生  
その他 - 14回 4つ程度に分ける  
企業倫理 3回  
情報倫理 3回  
生命倫理 2回  
科学者倫理 2回  
現地学習 4回

## どうでもいい班

司会者 平中 幸雄  
記録者 豊田 東雄  
発表者 森井 俊広

評価の視点：最初に自分の進路を書かせ、15回目頃に新たに自分の進路を書かせると共に、実現のための4年間のプランを書かせる。これで評価する。

訪問先の選定は、教員が行う。(1回目だけ)

授業の形態：原則2コマを使用(半期7~8回くらい)

対象学生：全学学生

現場訪問を実りあるものにするには(企画)

1回目は教員も一緒に、2回目以降は学生だけで実施する。

(講義：前提知識を与える)

到達目標 興味のある授業について、長所・短所を具体的に説明できるようにする。グループ作業(調査・研究)により得た情報を、他の参観者と共有する。

授業内容 1回目： ガイダンス、進路希望を書かせる  
2回目： 教員による見学先についての前提知識を与える  
グループ分け(グループ活動 役割の決定)  
3・4回目：見学  
5回目： 見学後の報告書に基づく検討会(グループごと)  
次回の見学希望先を学生が選定  
6・7回目：学生による前提知識を調べたものの発表会(下調べ)  
8・9回目：見学  
10・11回目：5回目と同様の検討会  
12・13回目：山形大学を知る(学内見学)  
14回目： 各自の報告に基づいた検討会  
15回目： 最後のまとめ(自分の進路を書き、実現するためのプランを作成)  
”自己啓発”

# 全体会記録

総合司会 飯田 俊彰  
記録者 久保田 功

## Q & A

### 1 明日の山大班に対し

Q：土・日に学外で授業を行うのはどうか？

A：学生に納得してもらった上で行う。

A：休日にフィールドワークをやることをシラバスに記入しておけば良い。

Q：出来合の芋煮は興ざめではないか？ A：時間的に無理

Q：テーマを持ち寄る時，学生が参考となるものが少ない

A：オリエンテーションで，良いテーマを見つけるように指導する。

Q：オリエンテーションで30名に絞るのか？

A：はじめは制限せず，あとでテーマと人数を決める。

### 2 青春班に対し

Q：学生がホームページを作れるのか？

A：ホームページの作り方を教える。「なせば成る！」

Q：取材の際のデジカメやビデオは，大学のものを使用するのか？

A：研究室にあるものを使う。

Q：エキスパートの講義の後に，学長・副学長が総論を行うのは，順序としてどうか？

### 3 なせば成る班に対し

Q：グループを半分に分ける（調査・分析／議論）ことについて，先に調査・分析をして，その後に議論をするのはよいが，先に議論をするのは問題ではないか？

A：教室の関係で無理

A：2つあるので大丈夫

### 4 花笠班に対し

Q：到達目標は，自分で考えて行動を取れるように。「倫理」は別の授業科目としてあるのではないか。それとの関連は？

A：具体的な例をあげて学際的に行うことが，この授業の特徴である。

Q：公共性との言葉が，タイトルに入っていないが良いのか？

A：付随して入っている。

Q：「環境倫理」が入っていないが。

A：農学部の先生に担当してもらう予定

### 5 どうでもいい班に対し

Q：山形大学の特徴が入っていないのではないか？

A：授業の中で取り込んでいく。



# プログラム 科目設計 3 :シラバスの完成」

## グループ作業記録

### 明日の山大班

(授業科目名) 山形を味わう	(開講学年) 1 年
(授業英語名) Learning / tasting Yamagata	(開講学期) 前 期
(担当教員) 明日の山大グループ	(単位数) 2 単位
(ローマ字)	(開講形態) 講義・演習
(教員の所属)	
(授業概要) 授業の目標：山形の風土を通して、山形の良さを発見する。 到達目標：山形の良さを認識し、他県に対して山形の良さを発信することができる。 企画・立案・調査・プレゼンテーション能力を獲得する。 授業形態：1グループ5人のグループ学習とし、6グループ計30人とする。	
(授業計画) 第1回            オリエンテーション 第2回            グループ分け・テーマ決定 第3回            各グループプラン発表と討論 第4～7回        フィールドワーク 第8回            中間発表 第9回            修正プレゼンテーション 第10～12回      フィールドワーク 第13・14回      最終発表会（コンテスト形式） 第15回           自由発表会（芋煮会）	
(成績評価の方法) ・グループ内相互評価            30%            ・教員によるレポート評価            20% ・発表に対する評価                40%            ・お世話になった方からの評価        10%	
(テキスト)	
(参考書) プレゼンテーション技能についての参考資料（前年度のNo.1発表）	
(その他)	(履修に当たっての留意点)
	(学生へのメッセージ等)
	(担当教員の専門分野)
	(自由記載欄)

# 青春班

(授業科目名) いま時代を動かす先輩たち		(開講学年) 1 学年
(授業英語名) Our Excellent OB & OG		(開講学期) 後 期
(担当教員) (ローマ字) 向田 昌志 他 Masashi Mukaida etal.		(単位数) 2 単位
		(開講形態) 演 習
(教員の所属) 山形大学及び新潟大学(合田 正毅)他		
(授業概要) 地域で成功し、活躍している卒業生、山大マインドでの講演者の中で人望のあった先輩5名を選択し、体験談をお話しいただく。学生は訪問したい先輩ごとに5班に分かれて訪問計画書を作成し、審議する。各班の訪問に当たっては、事前にアポイントを取る。 先輩の現場訪問では、なるべく多くの資料を作成し、プレゼンテーション作成、ホームページへのアップを行う。地域企業の成功例を基に、各自の今後の勉学に役立てる授業である。		
(授業計画) 第1回 ガイダンス、講師紹介 第2～6回 各講師による体験談 第7回 グループ振り分け・調整と計画書作成 第8回 計画書の相互討論 第9～11回 現場訪問・先輩インタビュー・記録作成 第12回 レポート作成・礼状作成 第13回 ホームページ作成、編集 第14回 プレゼンテーション作成 第15回 プレゼンテーション・総合討論・各講師の評価		
(成績評価の方法) 計画書(20%)、レポート(30%)、プレゼンテーション(30%)、礼状(15%)、ホームページへのアクセス数(5%)の成果を総合的に評価する。		
(テキスト) 授業中に指示(各講師の著書)		
(参考書) ホームページの作成(ホームページビルダー:平中 幸雄 著)		
(その他)	(履修に当たっての留意点) 自分は地域に何ができるかを考えてほしい。	
	(学生へのメッセージ等) 能動的、主体的学習能力を向上させ、卒業後の進路選択に活かしてほしい。	
	(担当教員の専門分野) 応用物理など全分野	
	(自由記載欄) 社会人への自覚を高めよう	



花 笠 班

<p>( 授業科目名 ) 社会人のための倫理と公共性</p>	<p>( 開講学年 ) 1 年</p>
<p>( 授業英語名 ) Interdisciplinary Workshop on Ethics and it's Practice</p>	<p>( 開講学期 ) 前 期</p>
<p>( 担当教員 ) ( ローマ字 )</p>	<p>( 単 位 数 ) 2 単位</p>
<p>( 教員の所属 )</p>	
<p>( 授業概要 )            授業目標            幅広い領域において、倫理性・公共性を判断する姿勢を身につける。            到達目標            幅広い情報を入手し、バランスの取れた思考（偏った見方ではなく）ができる。            これまでの論争となった倫理上の諸問題を正しく理解する。</p>	
<p>( 授業計画 )            第 1 回 総論（沼澤副学長），オリエンテーション            第 2 回 倫理とは（平田 俊博）            第 3，4 回 科学者の倫理（理・工学部教員）            第 5，6 回 企業倫理（人文学部教員）            第 7～9 回 現地学習            第 10～12 回 生命倫理（医，農学部教員）            第 13～14 回 情報倫理            第 15 回 総合討論（全員）</p>	
<p>( 成績評価の方法 )            それぞれのディベートの後にレポートを課す。            ディベートとは別の問題について考えさせる。            ディベートの態度            現地学習 レポート            最後に総合討論，知識を問う試験</p>	
<p>( テキスト )</p>	
<p>( 参考書 )</p>	
<p>( その他 )</p>	<p>( 履修に当たっての留意点 )</p> <hr/> <p>( 学生へのメッセージ等 )</p> <hr/> <p>( 担当教員の専門分野 )</p> <hr/> <p>( 自由記載欄 )</p>

どうでもいい班

<p>(授業科目名) 社会との接点(教養セミナー)</p>	<p>(開講学年) 1年</p>
<p>(授業英語名) What do you work for ?</p>	<p>(開講学期) 前期</p>
<p>(担当教員) (ローマ字) 「どうでもいい」から「とってもいい」班</p>	<p>(単位数) 2単位</p>
<p>(開講形態) 演習</p>	
<p>(教員の所属)</p>	
<p>(授業概要) この授業は、労働現場を実際に訪ね、職業意識と労働意欲を培うことを目的とする。授業は少人数(20名)のセミナー形式で行う。 授業の目標：社会と大学の接点を理解し、大学4年間の学習の意味を知り、大学生活及び卒業後の人生設計を描けるようにする。 到達目標：・卒業後の進路(ライフプラン)を作ることができる。 ・進路と4年間の学習計画・意味との関係を組み立てることができる。</p>	
<p>(授業計画) 第1回 ガイダンス(趣旨), 進路希望の調書 第2~4回 第1回目の「社会を見る」 ・見学的レクチャー・質問準備 ・見学(2コマ) ・レポートに基づく検討会 ・グルーピング(役割の分担) 第5~11回 第2回目の「社会を見る」 ・見学先の企画・アレンジ・準備報告(2コマ) ・見学(2コマ) ・レポートに基づく検討会(2コマ) 第12・13回 「大学を見る」 学内の施設・授業・研究室 第14・15回 全体討議とレポート作成 ・社会との接点 ・大学4年間の学習プラン ・進路希望(ライフプラン)</p>	
<p>(成績評価の方法) 見学先に関するレポート(目的の明確さ・調査の充実度・考察・グループ相互の達成度) 最終レポート(進路の実現のためのプランの具体性・学習との関連性) とは50%50%のウェイトで評価を行う。(学生相互の評価を含める)</p>	
<p>(テキスト)</p>	
<p>(参考書)</p>	
<p>(その他)</p>	<p>(履修に当たっての留意点) 成績評価は、全回出席・全レポート提出を前提とします。企業視察などがあるので、マナー(時間厳守)、服装に注意してください。</p> <p>(学生へのメッセージ等) 4年間は足早です。自分探しの旅を始めましょう。この授業はあなたが主役です。</p> <p>(担当教員の専門分野)</p> <p>(自由記載欄)</p>

# 全体会記録

総合司会 豊田 東雄  
記録者 菅原 陸郎

## 明日の山大班

- ・成績評価に特徴

Q：学生による評価とは？ A：グループ間，グループ内の評価

Q：欠席の扱いは？ A：評価に反映

## 青春班

- ・計画書に特徴 プレゼンテーションの評価が高い

- ・講師5名の体験談 - グループの振り分け，学生の希望

Q：HPのアクセス数による評価とは？

Q：授業内容が課題と離れている A：地域との関連で考えている

## なせば成る班

- ・目標：考えて，行動するきっかけ なせば成る精神を身につけさせる。

評価：4項目

## 花笠班

- ・評価：レポート，試験

Q：試験問題は？

Q：試験問題の作成は誰か（総論，各論）？ A：担当者作題

## どうでもいい班

Q：授業計画（見学，訪問）は日程的に苦しいのでは？

A：事前にチェックしているので可能

Q：成功した人（風変わりな人が多い）の話を，学生がどのようにとらえるか？



# 各プログラムの記録【第3チーム】

## プログラム 「山形大学のニーズと課題」

### グループ作業記録

こまくさ班

司会者 石島 庸男  
記録者 津田 純子  
発表者 木村 宏

- 1 山形大学に何が求められているか?  
山形大学自体が，その存続を求められている（例：教育学部存続運動など）  
安価な地域リーダー育成の場として認識されている
- 2 山形大学の置かれている状況分析  
（長所）キャンパスの分散  
理系をはじめとする優れた研究の伝統（科研費取得ランキングが高い）  
学生が誇りを持つ，高校教員の好感度  
（短所）マンパワーの重複，カリキュラムの重複（例：英語など）  
総合大学の実質を伴っていない  
イメージ戦略に問題
- 3 現実的な制約・問題点・改革の必要性など  
キャンパスを統一するか，内容を統一する  
希望者の全寮制，空室を開放して活用  
県民や社会に対する位置付け，イメージ作り  
教養教育の中核組織が必要  
サテライトキャンパスの本格的利用  
山形大学に関する社会・学生ニーズの本格的調査  
県との懇談会や運営諮問機関の機能を改善  
科研費ランキングなど全国での位置付けを，データに基づいて明確化  
e-learningの導入，衛星放送の利用



## しょうがない班

司会者 濱中 新吾  
記録者 渡辺 将尚  
発表者 渡辺 将尚

### 1 山形大学に何が求められているか?

社会 = 地域と定義

(例) 工 = ハイレベル, 使いものになる技術者

農 = 実践での指導者

学生 = 良い就職先 語学を含めた基礎力  
= 実社会ですぐ使える知識

### 2 山形大学の置かれている状況分析

・長所

・短所 「でもしか学生」 = 活力がない

原因・理由 = 第一志望ではない

### 3 解決策

大きな目標・夢を見せる

ex. 学会発表 (第一線の研究)

場を用意する

## しー班

司会者 佐野 隆志  
記録者 國方 敬司  
発表者 高橋 良彰

### 1 現状分析

地域 = 地域からのニーズ

教養教育

学部教育

大学院教育



専門知識と技術への要請 (工学部)

専門家の養成

地方大学 - 東北大学などへの大学院進学

短所 タコ足大学 ・授業負担が大きくなる

・学部間交流がない

・進学校からの進学において, 工・農を避ける傾向

長所 総合大学・それ相当規模

大都市でないため, 地域と密接になりうる可能性

都立大学夜間 - 社会に出てからもう一度入学したくなる大学

} 多様な人材に対する  
需要・供給

### 2 課題

・キャンパスの統合

・文系などを含めて地元とのより密接な交流

・専門性を支える総合的な力を養成

・個々の学生の要求に応える教育

## ちゅうか班

司会者 新井 猛浩  
記録者 新宮 学  
発表者 簡野 宗明

### 1 山形大学に何が求められているか?

地域の中に開かれた多様性の空間を創る  
(他県出身者, 留学生 学生のみならず教員も含めて)  
ニーズ 即戦力 実務能力 } この両立  
理念 人間形成

### 2 山形大学の置かれている状況分析

長所 まじめ 粘り強い  
短所 閉鎖的 少子化傾向

### 3 現実的な制約・問題点・改革の必要性など

経済的 アルバイト先不足 奨学金の創設(対留学生)  
タコ足(分散キャンパス) 総合大学の利点を活かしてない

## グッドご班

司会者 池田 進  
記録者 林田 光祐  
発表者 鈴木 亨

### 1 山形大学に何が求められているか?

- ・良い人材を社会に送り出す。  
地域・全国・国際社会へ
- ・学生のニーズ  
入学した学生の自信を回復させる必要あり  
受験勉強の中で失った学生が多い

### 2 山形大学の置かれている状況分析

- ・長所: 総合大学としてのメリットを活かす  
単科大学と違って, 人脈(サークルなど)を広げることができる  
素直な学生が多い
- ・短所: 分散キャンパス 学部間の連携不足 長所にできないか

### 3 現実的な制約・問題点・改革の必要性など

- ・山形の地域性...文化・産業・自然をうまく活かす必要がある。
- ・研究の発信だけでなく, 教育の特徴(売り)を発信する必要がある。



# 全体会記録

総合司会 南谷 靖史  
記録者 丸田 忠雄

## 発表 グッドご班

- 1 良い人材を社会に（学生ニーズ）- 自信の回復
- 2 長所：総合大学の資源，素直な学生  
短所：分散キャンパス - 学部連携
- 3 山形の地域性 - 文化・産業・自然を強調  
教育研究の発信

## しー班

- 1 専門知識・技術・専門家の養成
- 2 長所：総合大学の規模，地域との連携  
短所：タコ足
- 3 キャンパス統合，地域との密な関係，専門性を推進，学生ニーズに対応

## しょうがない班

- 1 工 - 技術者養成，農 - 実践専門家，教 - 教員  
（学生） - 就職（語学力）
- 2 長所：教育環境  
短所：でもしか学生
- 3 大きな目標・夢を

## ちゅうか班

- 1 地域重視，開かれた大学，多様性  
（学生）即戦力，人間形成
- 2 長所：まじめ，粘り強い  
短所：閉鎖的
- 3 学生に対する経済的支援，タコ足解消

## こまくさ班

- 1 県唯一の国立大，安価な教育推進
- 2 長所：分散キャンパス，イメージ，カリキュラムの重複  
短所：地域と密な関係，人的資源，研究力
- 3 キャンパス統合，カリキュラムの重複をなくす  
工，農の1年次学生 - 全寮制に  
イメージ作り，教養教育の中核機関

## Q & A

司会者から 山形県に卒業生が定着していないのではないか？  
全体を通じて，山形大学は全国から学生が来る。来た者を選ばず，今の山形大学に良い教育，教育支援をして，良い卒業生を送り出すのが本学の努めである。

「でもしか」学生について，グッドご班としょうがない班で議論あり。



# プログラム 「山形大学をどのような大学にするか」

## グループ作業記録

こまくさ班

司会者 津田 純子  
記録者 石島 庸男  
発表者 丸田 忠雄

### 1 校風とキャッチフレーズ

地域密着型とか優秀な人材をととか，当たり前の発想しか出なかったが  
「自学成長型大学」というところでどうか

### 2 方略と実行計画

- 1)入試 特別選抜枠，AO，推薦多様化
- 2)早い時期にワークショップ型授業を キャリア形成型教育  
そのためには教員のFD（グループスタディモ）が必須
- 3)研究室に早い時期に入れ，TA，集団指導，院生等と一緒に伸びていける体制作り  
学習指導組織作り，学習支援組織作り

### 3 評価

- 1)卒業時へ満足度調査（50%以上「良い」がないとダメ）
- 2)就職先の追跡調査も必要（就職担当者）
- 3)独力で卒業できる

40分の課題としては難しすぎないか？全学的に募ったらどうか？

それらをまとめて，みんなで校風やキャッチフレーズを創っていったら

-それを全学に返す（例えば新聞，雑誌の発行，山形大学出版会を創って他の事業も...）  
と，話はずれていったが，面白く，苦しかった。



## しょうがない班

司会者 高橋 敏能  
記録者 武石 誠  
発表者 武石 誠

### 1 山形大学の理念・目標

現場（フィールド）に強い実行力のある人を育てる どこでも活躍できる人  
広い教養を身につけた「大教養人」を育成する。

教育学部：4 + 2 = 6年制 全員教育

自分で考え、方向を決めて事を進めていく能力のある人を養成する。

### 2 方略

入学者選抜方法の改善（センター試験，個別学力検査）

簡素化 基礎学力のみでよい 入口広く出口狭く

### 3 実行計画

入学後：夢を持たせる教養教育

少人数セミナーを全学的に充実

ダブルメジャーの方向を考える

### 4 評価

学生による教員評価（評価項目の充実）

教員による教員評価（公開授業の充実）

就職状況の調査 就学状況の調査

## しー班

司会者 長尾 直茂  
記録者 小坂 哲夫  
発表者 佐野 隆志

### 1 山形大学のキャッチフレーズ

キャッチフレーズ「なせば成る」

理念

・努力の裏打ちが必要

・経験が必要

・競争原理が働かない

・新しく自信をつけさせる大学

・社会に役立つ自信

・生きていく上での自信

### 2 実現のための方略

- 努力させるシステムをどう構築するか

・自尊心をくすぐる。中学，高校で教わらなかったことを教える

・知的好奇心をくすぐる ・ものの見方を教える

・大学生としての自覚 ・GPAで努力してないことを分からせる。

・落ちこぼれを救うきめ細かさ，努力を促す（小テスト）

### 3 実行計画

・10単位の上限を外す。 ・ガイドラインを決める

・全学的に教育を考える組織が必要

・自由に学部を超えて授業を受けられる体制 キャンパス統合が必要

### 4 評価

・成績の発表

・答案返却

## ちゅうか班

司会者 新井 猛浩  
記録者 新宮 学  
発表者 志田 惇一

### 1 山形大学の理念・目標・キャッチフレーズ

ものづくりのできる人づくり - 工場，農作業，僻地，山村，観光地  
現場を見せる 体験させる 目的意識，やる気，モチベーション  
生活環境を体験させる，生きる力

### 2 方略

教養教育のカリキュラムの中に必修の実習とする  
物をつくる現場・生活の現場でのものづくりを体験させる  
単位化する

### 3 実行計画

各学部から実行委員会を組織  
実習先 地元で活躍するOBの活用  
ホームステイ先 OBや地元自治体の協力支援

### 4 評価

学生に定期的に進路調査（半年に1度）

## グッドご班

司会者 立松 潔  
記録者 布施 淳子  
発表者 直江 清隆

### 1 山形大学の理念・目標・キャッチフレーズ

いやしの生活環境で自信と説得力を身につけよう

### 2 方略

1)生活支援（安価で学べる環境）  
授業料の検討，奨学金の支援，寮の充実  
2)地域との連携 県からの支援協力，産学官の連携  
3)同窓会の強化 大学への支援協力・同窓会と大学のリンク  
同窓会 経済的支援 大学 知的資源の提供

### 3 実行計画

1)社会人教育の充実（生涯学べる）  
インターネット活用  
授業のバラ売り（地域，同窓会の割引）  
学部 大学院とリンクさせる  
2)授業改善  
・プレゼン重視（教養教育と専門教育をつなぐ） 積極性の育成  
・題材の吟味（教員の充実）  
3)同窓会の組織化（全学部で1つにする）

### 4 評価

同窓会を利用し，社会からの評価，自己評価を行う

# 全体会記録

総合司会 高橋 敏能  
記録者 栗山 恭直

- 発表**
- 1 ちゅうか班 「ものづくりのできる人」  
教養教育のときモチベーションをつける 実習  
社会実習（工場），社会貢献（環境・福祉） 企業，地元，OBの協力  
半年1回の進路調査
  - 2 しー班 「なせば成る」  
なせば成る 努力・経験 自信をつけさせる  
・自覚を持たせる GPA 教養教育の履修上限の撤廃  
学部を超えた自由な講義  
・客観的な評価手法の確立  
・成績の発表・答案の返却
  - 3 グッドご班 「いやしの生活環境で自信と説得力を身につけよう」  
・生活支援ネットワーク  
社会人教育，生涯教育，インターネット活用，バラ売り  
・説得力を持たせる  
プレゼン重視の教育，全学的な同窓会  
・学生の自信と説得力  
同窓会を活用した評価システム・社会還元 外部評価 大学としての評価
  - 4 こまくさ班 「学生が自学・成長する大学」  
・特別選抜枠入試（山形枠），AO  
・ワークショップ型授業 教員FD キャリア形成教育  
専門へのモチベーション（3年ラボ） 学習支援組織（チューター）  
・卒業時のアンケート 就職先からのアンケート
  - 5 しょうがない班 「ノーモアでもしか」  
・現場に強い実行力のある人材  
どこでも（グローバルな）活躍できる人  
自分で考え，方向を決めて  
・入学者選抜方法の改善 簡素化（基礎学力のみ） 門戸広く 出口狭く  
少人数セミナーを全学的に充実 ダブルメジャー

- まとめ**
- ・具体案（教員個人）は出るが，大学全体としての対応ができないジレンマ
  - ・入試問題 最低の基礎学力  
新学習指導要領の学生への対応を考える 補習教育

個別学力検査 学力のある学生：個別を希望  
学力の低い学生：小論文，AOを希望？

- ・門戸広く 出口狭く ... 日本には適さない  
学生の指導（退学）などにGPAを利用  
目標のレベルに達する学生を卒業させる。
- ・同窓会のあり方  
役割分担？ 全学的な組織作り

# プログラム 科目設計 1 :授業名と目標の設定」

## グループ作業記録

### もうええ班

司会者 志田 惇一  
記録者 渡辺 将尚  
発表者 林田 光祐

1 授業名 「まるごと山形の地域を食べる」

2 学習目標

#### 授業の目標

- ・山形大学の施設を最大限に利用しながら，山形大学の教員が行っている世界最先端の研究に触れる。
- ・学生が主体的に課題を選択，問題点を指摘し，解決策を提言する。

#### 到達目標

- ・問題を自ら発見する能力，プレゼンテーション能力を身につける。
- ・山形を知る。

### サクランボ班

司会者  
記録者  
発表者

1 授業名 「山形の食と生活」

背景：山形にはブランド食品が多い。

2 学習方法

- 1)学生に実態を調査させる。体験させることで教育する。  
調査能力， 解析能力， 発表能力， 現地調査も義務とする（インタビュー）
- 2)教員は目標の設定などの方向を示す。
- 3)評価は主としてプレゼンで行う。

3 教育目標

山形の実態を知って，解析・発表能力を養う。（芋煮）

4 到達目標

- ・標記の課題について総合評価
- ・知識・技能・態度の一環の流れを教育する。  
山形の自然・経済・生活・社会・歴史を説明できる。 目標  
さらに相互関係も考察させる。
- ・大学と地域との連携 生産者との交流など  
ex.食品（全国区）- 参考  
米（はえぬき），サクランボ，米沢牛，リンゴ，ブドウ，だだちゃ豆（白山），  
そば，ラ・フランス，柿（庄内），スイカなど多数

## 21世紀班

司会者 武石 誠  
記録者 長尾 直茂  
発表者 長尾 直茂

1 授業名 エネルギー，食料，少子高齢化，教育問題を考える

### 2 学習目標

情報という言葉の再検討

情報をいかに活用するかを以下のテーマに関して学ばせる。

エネルギー問題（理・工）

食糧問題（農）

少子高齢化問題（人・医）

教育問題（教）

各学部に近いテーマを選び，  
各学部教員が関わっていく

IT化する社会の中で，それだけでは情報を上手く処理できないことを学ぶ。

図書館，資料館など既存の施設の有効利用

学生は興味のあるテーマを選択し，教員と対話し，自分で調査する。

IT機材だけでなく，様々なメディアを用いて調査する。

今後，自分で問題を見出し，自分で調査し，結論を出せるようにする。 目標  
情報をいかに上手く用いるか。

## メロン班

司会者 丸田 忠雄  
記録者 佐野 隆志  
発表者 新宮 学

1 授業名 ボランティア活動を通じて，地球・地域社会を見てみよう（教養セミナー）

### 2 学習方法

学生（20～30名）からの提案（事前学習，ディスカッション） 教員はサポート

活動：簡単なものから 教室での取りまとめ，議論

ニーズ：青年層の社会性の養成

### 3 学習目標

実際の活動 問題発見，解決能力

アルバイトとの類似

自然との共生：持続可能な社会（授業目標）

インセンティブ



## いいご班

司会者 布施 淳子  
記録者 渡辺 克巳  
発表者 濱中 新吾

早い時期からの職業意識，キャリア教育，中期目標  
ようこそ先輩，いろいろな分野から人を呼ぶ話を聞く。  
教養教育，1年次対象，工場見学 - 働いて楽しいという意識  
自分からやりたい 現実が把握できる  
教育，マスコミの人，  
県庁の人，県の行政など，バラエティーに富んだ分野があることを知らせる。  
インターンシップ，気楽に仕事が見聞できると良い。  
教育，入れたから入れた，ほとんど教員になれない。現場に接する。  
使命感 単位を職場の人から認定してもらおう。まず講義の内容  
就職のためのアドバイスの支援はある。  
自分で会社を作り，売れる商品を開発，売る方法を企画しなさい。(会社出身教員)  
50人くらいのグループ 先輩の話聞くグループ  
ベンチャーグループ 毎回発表会を開く，外部の人の評価  
完成度を上げる 最後は発表  
学生主体小グループ「こんな仕事が好き」  
アルバイト，工場見学なども参考にする。障害者の施設なども

### 目標設定

学生主体 小グループ活動(テーマごと)  
卒業生からの話 バーチャル ベンチャー  
社会における意義 働いている人の意見，意識  
自分が社会に出て頑張ると意欲が培われる  
職業について実態調査して意義を知ること  
学生の職業意識が決まる

グループ活動を通じての集団学習  
社会性を身につける，技能を磨く  
プレゼンテーション能力



# 全体会記録

総合司会 武石 誠  
記録者 長尾 直茂

## もうええ班 「まるごと山形の地域を食べる」

学習目標：山形大学の施設を最大限に利用。教員の最先端の研究に触れる。

学生が主体的に課題を選択，問題を指摘し，解決策を考える。

到達目標：問題を自ら発見する能力，プレゼンテーション能力を身につける。

山形の地域の問題を考える。

## サクランボ班 「山形の食生活」

学習方法：学生に実態調査（インタビュー）をさせる。

教員は目標設定などについてアドバイスする。

到達目標：知識，技能等から総合評価をする。歴史なども考えさせる。

## メロン班 「ボランティア活動から地球・地域を見てみよう」

学習目標：事前学習，ディスカッションの組織化を教員がサポート

青年層の社会性の養成。でもしか学生からの脱却

自然との共生，持続可能な社会

## いいご班 「こんな仕事が好き」

学習目標：社会における職業の意義と実態を調査・理解する。

学生が職業に具体的イメージを獲得する。（知識） } プレゼン能力を  
職業人に不可欠な社会性を身につける（技能） } 養う。

## 21世紀班 「エネルギー，食糧，少子高齢化，教育問題を考える」

学習目標：自分で問題を見出し，自分で調査し，結論を出せる力を養う。

### Q & A

Q：山形大学の個性は，「最先端」部分だけではないのでは？

A：最先端のアピールが山形大学の個性につながると考えた。

Q：地域連携については？

A：農産物生産者とのコミュニケーション，食文化の背景を学ぶ。

Q：行った先で社会性を学ぶのでは遅いと思う。

A：1年生を対象にしているので，多少配慮せねばならないだろう。

Q：全般的に意欲不足だと思う。それをどう解決するか？

A：やればできるということを教えたい。

Q：教養と専門とのつながりを考えるべきでは？



# プログラム 科目設計 2 :授業内容の作成」

## グループ作業記録

もうええ班

司会者 石島 庸男  
記録者 高橋 良彰  
発表者 津田 純子

授業名 「まるごと山形の地域を食べる」

道筋

全体のオリエンテーションを1回...班分け, 調べ方(方法論), 分野の説明  
各相談員を中心に2回(グループごとに分かれて)...計画を立てる  
全体の状況を見るために1回...計画発表(5分くらいで)  
10班くらいに

各班: 第1回発表会(各回2班×5回) 1時間×2班×5回  
第2回発表会(各回2班×5回)

まとめ1回

全15回

学習方法

能動的学習法(グループ討議, グループ自習)

調べる時間は別に全員で集まる 各グループ中間発表(10分発表+5分質疑応答)

人的...各学部から相談教員...さらにリサーチ対象となる教員へ橋渡し

オリエンテーションの重要性(進む分野でも良いが, 他分野でも)

物的...予算は事前に

山形の各分野を...例えば, 政, 経, 医など

学生に相互評価させて頑張らせる

相談教員の打合せが重要



## サクランボ班

司会者 池田 進  
記録者 栗山 恭直  
発表者 小坂 哲夫

授業名 「山形の食生活」

全体の流れ 講義 + 実習 + 発表 1/3  
(レクチャー) (フィールド) (プレゼン)

調査方法 インタビューの仕方, 下調べ  
フィールド 2回 × 3 = 6 土日... 1回分カウント(休講)  
相手 複数先?  
生産者, JA, 役場, 試験場, 大学  
プランニング 調べる内容についてのプレゼン, ディスカッション  
グループ 5人 × 8グループ = 40人 導入時(オリエンテーション)  
総合学習的なものではない。  
さらなる提案 相手の立場に立っての将来提案

内容・手法  
研究計画 }  
調査結果 } プレゼン, ディスカッション 評価  
将来計画 }

フィールドワーク・インタビュー	1回	全学部対応型
プレゼン方法(ex. Power Point)	1回	農学部 概論(背景)
自己紹介	1回	工・理 技術
		医・教 食, 安全

予算 10万円(旅費5万 + 食材5万)

## 21世紀班

司会者 木村 宏  
記録者 鈴木 亨  
発表者 鈴木 亨

授業名 「エネルギー, 食糧, 少子高齢化, 教育問題を考える」

授業

- 1 オリエンテーション(方法「情報」の扱い方, グループ分け)
- 2 エネルギー問題(講義: 現状について, 利用できる調査資源の紹介)
- 3 食糧問題(講義)
- 4 エネルギー問題(中間報告: 課題設定等の確認)
- 5 食糧問題(中間報告)
- 6 エネルギー問題(発表)
- 7 食糧問題(発表)

以下, 「少子高齢化」と「教育」も同じパターンで

- 14 最終発表・討論
- 15 " まとめ

人的資源: 各テーマにコーディネーターを設け, 他学部から関連分野の教員を組み合わせ  
さらに学外の協力者も手配

## メロン班

司会者 折原 勝男  
記録者 丸田 忠雄  
発表者

授業名 「ボランティア活動から地球・地域を見てみよう」

授業計画 教養セミナー（約30人） 7・8, 9・10校時  
準備 - 1コマ（教員）  
調査 - 2コマ連続  
教員 - 1コマ  
総括 - 1コマ  
3テーマ  
グループ分け 6, 7人程度  
リーダーの選出

テーマ - 大学近辺の生活環境 - 教室から出やすいところ  
- 学生に決めさせる(例えば放置自転車問題など)

初回の授業  
↓  
最後の授業

- 識者からボランティア活動についての一般的な説明  
教員の方向付け
- ということがボランティアか？
- テーマの決定
- 実行
- 反省, 専門家のアドバイス
- 総括討論

## いigo班

司会者 立松 潔  
記録者 布施 淳子  
発表者 南谷 靖史

授業名 「こんな仕事が好き」

授業計画 30人クラス 6班編制（1班5名）

- 1 オリエンテーション：自己紹介  
人生設計を考える - その中で職業の位置付けを考える
- 2 班分け（人生設計） 学習計画の立案と発表 職業グループ
- 3 調査発表 - 家族の職業, アルバイト内容, 図書館等で調べる
- 4 見学先の提案 具体的に
- 5 見学先の設計・立案
- 6 見学
- 7 学んだことの発表
- 8 別のところの見学
- 9 学んだことの発表
- 10 見学
- 11 発表（反省会）
- 12 発表のリハーサル  
発表の訓練とアドバイス
- 13 発表のリハーサル
- 14 公開発表会
- 15 予備

学習方法 能動的学習法

学習のための資源 場所：地域, 家族  
媒体：Power Pointなど

# 全体会記録

総合司会 佐野 隆志  
記録者 直江 清隆

## もうええ班 「まるごと山形の地域を食べる」

到達目標：問題発見，プレゼン，地域について考える。

学習方法：グループ討議・自習，相談教員（10名：各分野），事前に予算要求

学習計画：1 全体オリエンテーション（1回：相談教員）

- 分野・方法論，グループ編成
- 2 班ごとに計画づくり，計画設定
- 3 中間まとめ（1時間2グループ）
- 4 班ごとの調査
- 5 まとめの発表（1時間2グループ）

## サクランボ班 「山形の食と生活」

到達目標：調査能力，解析能力，発表能力（受動＋能動）

県のある作物について将来計画を立案

学習計画：山形の食糧生産の概要（2回：農）

- 食の安全（1回：医）
- データの解析，Power Pointの使い方
- 計画立案，フィールド調査，試食会など

## 21世紀班 「エネルギー，食糧，少子高齢化，教育問題を考える」

基本パターン 各テーマ3時間

- 1 現状についての講義（教員） グループごとの調査
- 2 課題設定等の確認（中間報告）（学生）
- 3 発表（学生）

ex. エネルギー・食糧 ひとまとめにして6回

各テーマのコーディネーター教員を付け，他学部から関連分野の教員を組み合わせる。

## メロン班 「ボランティア活動から社会性を」

組み立て：1 何をするのか 地域の生活環境

（後期） 2 概論 専門教員による方法の提示

準備 1

外・調査 7・8校時 2コマ続き

総括 1

3 グループ分け 6×5組

} 4コマ

## いいご班 「こんな仕事が好き」

グループ学習 5×6人=30人

・オリエンテーション

・自己紹介 - 何をやりたいか 見学調査

班分け 班ごとに学習計画

発表

・人生設計 生涯賃金，余暇，家族，仕事など

・下調べ

・実際の見学 学んだことの発表 3回

・公開発表会

**Q & A** メロン班に対し

Q：グループごとにテーマを決める時学生が決めるのか。教員がお膳立てするのか。

A：一応のボランティアのあり方を提示し，最初はある程度の方向性を与えるが，あとの展開はそれを人に聞いたりしながら方向付けていくこと自体が社会性の学習

Q：町内会に，学生が喜んでいくのか？

2 1 世紀班に対し

Q：全体としてどう関連づけをするのか？

A：最終の2回で他のグループの発表などを聞いて再度発表してもらい，関連づけを図る。

Q：一方で大人数の学生に対し，現在生きる上で知っておいてほしいこと（生命倫理など）を教える場も必要では？

A：200人の授業でT Aで5～6人のグループ  
バーチャル研究所の活用（メロン班）は面白い。

Q：テーマがあらかじめ決められていて良いのか？お決まりの題目で良いのか？

A：自分達でこれから立ててやっていく方に発展性が有り得る。

Q：できるというところまで詰めてほしい。

A：可能性はある。

Q：調査はいつするのか？発表の練習はいつするのか？T Aは何人いるのかなどを詰めて，シラバスに書き込む必要あり



# プログラム 科目設計 3 :シラバスの完成」

## グループ作業記録

### もうええ班

(授業科目名) まるごと山形大学を食べる(教養セミナー)	(開講学年) 1 年
(授業英語名) Yamagata Univ tastes good!	(開講学期) 前期
(担当教員) (ローマ字) 相談教員: 高橋良彰, 渡辺将尚, 石島庸男, 志田惇一, 林田光祐	(単位数) 2 単位
(教員の所属) 全学部	(開講形態) 演習
(授業概要) 授業目標: ・山形大学の施設を最大限に利用しながら, 山形大学の教員が行っている最先端の研究に触れる。 ・学生が主体的に課題を選択し, 問題点を指摘し, 解決策を提言する。 到達目標: 問題解決能力, プレゼンテーション能力をつける	
(授業計画) 第1回 オリエンテーション 調査の方法を説明します。山形大学が最先端で取り組んでいる10分野を紹介。学生はそこから希望の分野を選びます。 第2~3回 相談教員による指導 第4回 構想発表会 第5~7回 調査, インタビュー 調査結果を基に, 考察してもらいます。 第8, 9回 中間発表会 第10~15回 調査 提言まで考えてもらいます。 7月末の土または日曜日に公開発表会を行います。	
(成績評価の方法) ・プレゼンテーションに対する教員の評価 40点 " 学生の評価 40点 ・グループ内での貢献度に対する相互評価 20点	
(テキスト)	
(参考書)	
(その他) (履修に当たっての留意点)	
(学生へのメッセージ等)	
(担当教員の専門分野)	
(自由記載欄)	

サクランボ班

(授業科目名) 山形の食と生活(総合)		(開講学年) 1 学年
(授業英語名) Food and Life in Yamagata		(開講学期) 前 期
(担当教員) サクランボ班		(単位数) 2 単位
(ローマ字)		(開講形態) 講義・演習
(教員の所属) 全学部		
(授業概要) 山形には、果物、米など豊富な食材が存在する。この食の現実から地域の歴史と文化を探り、山形の食と生活の未来をプランニングする。		
(授業計画)		
山形の食糧生産概要(2回 農)	フィールド調査の手法(1回 教育or人文)	
食の安全(1回 医or教育)	研究計画の立案とプレゼン(実習)(2回)	
データの収集、解析(1回 理or工)	フィールド調査(実習)(1回)	
プレゼン手法(1回 教育)	グループごと土・日を中心に	
自己紹介(実習)(1回)	試食体験会(実習)(1回)	
プレゼンの実習	フィールド調査結果の発表まとめ(実習)(2回)	
	将来計画のプランニング発表まとめ(実習)(2回)	
(成績評価の方法)		
自己紹介(10%)	左の5回のプレゼント通じて、以下の能力を総合評価する。	
研究計画(20%)	調査能力	
調査の集計、解析(20%)	解析能力	
将来計画のプランニング(30%)	発表能力	
レポートと質疑応答(20%)	総合して6割以上を合格とする。	
(テキスト)		
(参考書) パワーポイント、フィールドワークに関する参考書を指定する。		
(その他)	(履修に当たっての留意点) フィールド調査(1回)は土・日を中心となる。発表の準備は授業時間外に行う。	
	(学生へのメッセージ等) この授業を通じて、山形の食材を知り愛着を持ってください。	
	(担当教員の専門分野)	
	(自由記載欄)	

21世紀班

<p>(授業科目名) エネルギー，食糧，少子高齢化，教育問題を考える</p>	<p>(開講学年) 1年</p>
<p>(授業英語名) Energy, Food supply, Population problem, and Education</p>	<p>(開講学期) 前期</p>
<p>(担当教員) (ローマ字) エネルギー(人,理,工),食糧(育,医,農), 少子高齢化(人,育,医),教育(育,理,工)</p>	<p>(単位数) 単位</p>
<p>(教員の所属) 全学部</p>	
<p>(授業概要) この授業は、エネルギー，食糧，少子高齢化，教育問題を中心に据えて、自分で情報を収集し、分析する作業を通じて、21世紀の諸問題を考え、解決していく道筋を身につけていくことを目標としています。1グループ5名として、10グループを予定しています。</p>	
<p>(授業計画) 第1回 オリエンテーション(自分で調べる授業である。グループ分け) エネルギー問題 第2回 講義 第4回 中間報告 第6回 グループ報告 食糧問題 第3回 講義 第5回 中間報告 第7回 グループ報告 少子高齢化問題 第8回 講義 第10回 中間報告 第12回 グループ報告 教育問題 第9回 講義 第11回 中間報告 第13回 グループ報告 第14回 最終報告 第15回 授業全体のまとめ</p>	
<p>(成績評価の方法) 中間報告及びグループ最終報告については、学生による評価と教員による評価点を25点ずつとし、最後にレポートを書いてもらい50点分として教員が評価し、合わせて100点とします。</p>	
<p>(テキスト) その都度指示します。</p>	
<p>(参考書) その都度指示します。</p>	
<p>(その他)</p>	<p>(履修に当たっての留意点)</p> <hr/> <p>(学生へのメッセージ等) 意欲を持っている学生に来てほしい。</p> <hr/> <p>(担当教員の専門分野)</p> <hr/> <p>(自由記載欄) 14週目に学生による授業評価を予定しています。</p>

メロン班

<p>(授業科目名) ボランティア活動から地域社会を考える(教養セミナー)</p>	<p>(開講学年) 1～4年</p>
<p>(授業英語名)</p>	<p>(開講学期) 後期</p>
<p>(担当教員) (ローマ字)</p>	<p>(単位数) 2単位</p>
<p>折原, 丸田ほか3名</p>	<p>(開講形態) 演習</p>
<p>(教員の所属) 工学部, 人文学部, 理学部, 教育学部</p>	
<p>(授業概要) ボランティア活動を通じて, 地域の諸問題を考えてみます。問題を発見し, 解決案を考え, 改善の提言までを作成し, 地域社会の分析を行います。授業はグループ活動が中心となりますが, リーダーを中心として仲間と協調して, あるテーマについて達成を目指します。何かやりたくてムズムズしている人集まれ!</p>	
<p>(授業計画) 第1回 オリエンテーション - 30人に 第2回 自己紹介, 体験報告, 今後の希望を話し, 書かせる グループ分け(固定) 第3回 講師による講義 NPO代表者, 山形大学まちづくり研究所のスタッフなど 第4～7回 1クール(準備, 調査, 総括) 第8～11回 2クール(準備, 調査, 総括) 第12～15回 3クール(準備, 調査, 総括) 最終回は, グループごとに報告し, グループごとの評価を出す(地域に公開)</p>	
<p>(成績評価の方法) グループ評価(60点) プレゼン, レポート 個人評価(40点) 教員が, 出席(8割以上, 遅刻15分以上はアウト), 学習態度, 提言レポート</p>	
<p>(テキスト)</p>	
<p>(参考書)</p>	
<p>(その他)</p>	<p>(履修に当たっての留意点)</p> <hr/> <p>(学生へのメッセージ等) 能動的参加を希望</p> <hr/> <p>(担当教員の専門分野)</p> <hr/> <p>(自由記載欄) 授業改善アンケートは最終回に受けます。</p>

いいご班

<p>(授業科目名) こんな仕事が好き！</p>	<p>(開講学年) 1 年</p>
<p>(授業英語名) Pride in your Job!</p>	<p>(開講学期) 後 期</p>
<p>(担当教員) (ローマ字) 全学部から各 1 名</p>	<p>(単位数) 2 単位</p>
<p>(開講形態) 演 習</p>	
<p>(教員の所属) 全学部</p>	
<p>(授業概要) この授業では、早期からの具体的な職業意識と労働意欲を養うことを目的としています。学生の皆さんが、ある職業を考える時、漠然としたイメージや、TVドラマのイメージでとらえてはいませんか？ここではみなさん自身の人生設計の中で、職業というものを考えてみたいと思います。そのために、学生の皆さんが積極的に、様々な職業について、自分達の手で調べ、見学等を通じて、職業選択のためのきっかけとしてもらいたいと思います。</p>	
<p>(授業計画)</p> <p>第 1 回 オリエンテーション(授業の目的と進め方) 自己紹介・参加目的の表明          第 2 回 班分け(職業グループ別学習計画立案)          第 3 回 グループ調査活動の発表          第 4 回 グループ調査活動の発表          第 5 回 グループ調査活動の発表 } 見学先提案          第 6 回 見学 第 7 回 学んだことの発表          第 8 回 見学 第 9 回 学んだことの発表          第 10 回 見学 第 11 回 学んだことの発表          第 12 回 公開発表のリハーサル          第 13 回 公開発表のリハーサル          第 14 回 公開発表          第 15 回 予備日</p>	
<p>(成績評価の方法) 出席 20% グループ発表の内容・成果 50% 授業でのパフォーマンス(発言, 役割担当) 30% 発表ごとに評価する。</p>	
<p>(テキスト)</p>	
<p>(参考書) グループごとに適切な文献・資料を紹介する。</p>	
<p>(その他)</p>	<p>(履修に当たっての留意点) 授業時間外のグループ学習に相当の時間が必要になります。</p> <p>(学生へのメッセージ等) 主体的な参加を希望します。</p> <p>(担当教員の専門分野)</p> <p>(自由記載欄) 講義終了後に、この授業についての感想について、レポートを提出していただきます。</p>

# 全体会記録

総合司会 立松 潔  
記録者 渡辺 克巳

## もうええ班 まるごと山形大学を食べる

- ・ 5人の教員 さらに各学部からの担当者が必要
- ・ 先端的なことに接する。問題を自分で見つけ、解決する。
- ・ 10分野を設定、自分の専門でない分野を選ぶ。
- ・ 各班5分調査・発表 基礎学習は自分で行う。
- ・ 中間発表 最後は全体発表

## サクランボ班 山形の食と生活

- ・ 講義と演習 山形の食と生活の未来を考える。  
食糧生産の概要（2回 農）  
食の安全性について（医）  
データの収集と解析（理or工）  
プレゼンテーション法（教育）
- ・ フィールド調査（土、日） 試食体験会 学生の負担はかなり大

## 21世紀班 エネルギー，食糧，少子高齢化，教育の問題

- ・ 1グループ5名×10  
講義 経済問題にも  
エネルギー問題，食糧，少子高齢化，教育の4グループを通じて最終報告
- ・ コーディネーターが大変かも

## メロン班 ボランティア活動から社会を組み立て

- ・ 上級生も入って上下間の関係も含める。 リーダー作り
- ・ 教員 工，教育など複数  
オリエンテーション，自己紹介，グループ分け
- ・ NGOの代表者とも打ち合わせる。
- ・ レポート，プレゼンテーション 学生間でグループ評価

## いいご班 こんな仕事が好き！

- ・ 職業意識と労働意欲 全学部から教員を集める 演習形式
- ・ 自分達の手で調べ，実施，調査する。
- ・ インターネット，図書館で基礎調査，そして発表 パフォーマンス重視

## Q & A

Q：21世紀班，いいご班では，グループでの学生同士の評価は公平であるか。

A：75点分は教員，25点分は，誤差はあるが学生にさせる。学生の評価は正直である。何を評価するかを明記すれば，客観性が保てると思う。

Q：中身があつてのプレゼンテーションだと思うが，その手法の教育があつた方が良いのではないか？

A：人前で自己表現することが不得意な学生が多い。それを教えることも含めての授業を考えている。

Q：メロン班では，複数の教員の担当は大変なのではないか？

A：どこまで手がけていくかが問題である。学生が自主的に行動することに期待したい。

Q：実現性についての検討はどうか？

A：(いいご班) 見学先の検討が大切

(メロン班) 学内で力をつけてから学外活動